

鮮朝の近最

府督總鮮朝

鮮 朝 の 近 最

月 九 年 八 和 昭

府 督 總 鮮 朝

## はしがき

紺碧の夏空深く澄み渡つて、南大門の青蔭に風薫る昭和七年の初夏のころ満洲問題調査の使命を帯びた國際聯盟調査團の一行が、態々京城を訪れて、宇垣總督と會見した。

席上一行中の某將軍はまづ口を開いて、如何にも驚嘆したかのごとき表情をなして、左のごとき感想を洩らして挨拶に代へたのである。

「自分は昨日來、東洋に於ける一つの驚異を發見した。それは今回の長い旅行に於ける大きい收穫であつた。同時に自分の今日までの研究不足をしみじみと愧ぢて居る。何であるかといへば朝鮮に對する全般的な認識の相違である。

吾々は朝鮮といふところは、地理的には大體滿洲の延長であるから、相變らず匪賊は横行し、産業も振はず、赭土色の禿山の下で、民衆は懶惰の生活を送つてゐるものとばかり思つてゐた。然るに列車が一度び鴨綠江の鐵橋を越へるや車窓に隱見する事々物々、皆吾々の豫想に反し、見渡す山河



は青々として繁茂し、農民は水田に出でて孜々として耕作に従事し、平壤その他工業地の煙突からは活潑に煙を吐き、驛頭に散見する鮮人は皆さつぱりとした衣服を纏ひ、治安はよく維持せられて何等の不安はなく、群衆は極めて秩序正しく行動し、且其顔に憂色がなく、滿洲に比べて實に隔世の感がしたのである。

これとりもなほさず貴國の植民政策が妥當であつて、歴代の總督が熱心に徳政を施かれた結果であることを卒直にお歡びすると同時に、今後に於ける吾々の朝鮮觀を根本より改めるであらうと。

この一外人の朝鮮從來觀は、やがて世界の人々の朝鮮觀であるのであらう同時に最近に於ける朝鮮の真相を研究せらるゝならば、この將軍のごとくその誤りを率直に改めて頂けることであらうと思ふのである。しかし尙今日のところ日本内地に於てすら、未だ朝鮮の眞の姿を知らぬ人々はかなり多い様である。

たとへば滿洲國獨立前後に於て、間島に各種の事件が起りその重要性が叫

ばれ、間島と朝鮮との密接なる關係が新聞紙上に散見された當時、間島とはどの島であらうと、地圖の上で日本海及黃海方面の島々を熱心に探した人々が多かつたといふことは、如何に朝鮮に對する人々の關心の薄きかといふ何よりの證據であつて、一つの話柄としては兎も角も、朝鮮にとつては笑へぬ重大事なのである。

産業朝鮮の内容の如きも、世に知られてゐる點はまことに狹隘なる範圍にとどまつてゐた様である。しかし朝鮮に於ける資源經濟の睡伏狀態と、これが開發に就いての恵まれたる各種の條件とは、農業的にも、亦工業的にも、多分に有望なる將來を持つてゐるのみならず、すでに當局の指導獎勵によつて觸發されたるもの、又民間に於て夫々計畫企業せる各種産業部門は着々其の實績を擧げつゝあつて、近來頗る活潑さを加へ來つたようである。さらに現下朝鮮に於ける資源中の金・棉花・羊毛・水産物・特殊礦物・鐵・石炭・炭素工産物等は、我國策經濟の上に於て重要な至寶といふも、敢えて過言でないほどの必須性を持つて居り、且此等の資源を逐次開發するの基幹たる

動力問題に於て、最近電力統制を實施し得て豊富なる電力を安價に供給し得る根本問題を解決し得たことは何よりの幸といはねばならぬ。斯くて新興朝鮮の經濟力は愈充實して行くであらうことを庶幾し得られるのである。

英國人バード・ビショップ女史は、その名著朝鮮旅行記に於て左のごとく言つて居る。

「朝鮮半島の氣候は寒暑・風雨・乾濕ともに當を得て、恐らく世界中に於ける最好最適の健康地であらう、朝鮮在住の外國人は嘗て風土病に冒された試しがない。産んだ子供は悉く達者に育つてゆく……」と。

これは單なる氣候風土の一例にすぎぬが、四十年前に於て既に、斯くの如き百年の知己を得て居る一面もある朝鮮である。現代の人々が、ビショップ女史が朝鮮の氣候を正しく評したごとく、最近の朝鮮を産業的に、社會的に、文化的に正解して頂けるならば、この小冊子は過分の光榮を擔ふことになると思ふのである。

## 目 次

一、半島の自然美……………	一
二、明朗なる氣候……………	九
三、土地と人……………	三
四、併合の由來と統治の方針……………	二〇
五、施政の實績……………	二五
六、飛行機は縦横に飛ぶ……………	三
七、産業朝鮮の全貌……………	三九
八、最近の主要都邑 附 金剛山……………	五九

(イ) 釜山より京城まで

釜山・馬山・大邱・慶州・鳥致院・公州・清州・天安・水原・仁川・京城・春川



宇 垣 總 督



朴 中 樞 院 副 議 長



今 井 田 政 務 總 監

附 圖 朝 鮮 地 圖

九、鮮内視察日程に就いて……………八九

- (ロ) 大田より木浦及麗水まで
- 大田・扶餘・全州・群山・光州・木浦・麗水
- (ハ) 京城より新義州まで
- 開城・沙里院・海州・平壤・鎮南浦・新義州
- (ニ) 京城より上三峰・雄基及羅津まで
- 鐵原・元山・咸興・興南・城津・羅南・清津・會寧・上三峰・雄基・羅津
- 金剛山



山 剛 金



ム望ヲ舍廳府督總リヨ近附樓會慶

## 最近の朝鮮

### 一、半島の自然美

#### 一

世界地圖を擧げて各國半島の形狀を視ると仲々に面白い。丁抹・希臘は掌狀をなし、伊太利は長靴狀をなし、我が朝鮮は亞細亞大陸の東海岸に架せられた一大棧橋のようである。滿洲國が創立されて日滿兩國の親善關係が今後いよいよ緊密となり、兩國民の往來一層頻繁を加へるの際、本土の人達が大陸に伸びんとする上陸第一歩の朝鮮が、巨大なる棧橋狀をなすことはまことに愉快なる暗合と言はなければならぬ。

由來半島は天與の景勝を保有するものである。伊太利が歐洲の公園として旅人憧憬の的となれるごとく、朝鮮もその例に洩れず、東は日本海に面し、西は黃海に臨み、南は朝鮮海峽に瀕し、北は長白山脈・鴨綠江・豆滿江の一部を以て滿洲國及露領沿海州に連り、太白山脈は東海岸に偏しつゝも、長く南北に走行して脊梁をなし、西部に廣濶なる地域を展開して、數條の大河が豐沃なる地域を流れる等、海に、山に、平野に、大河に、半島特有の變化に富んだ自然美を構成し、三千年盛衰興亡の歴史





と相俟つて、詩の國、美の國、傳説の國として、深く旅人の興趣を唆るのである。

## 二

自然美の盟主としてはまづ金剛山を挙げずばなるまい、まこと金剛山に登らずして山を語るの資格はない。雄大豪壯なるスケールと奇々怪々なる山形と、盡くることなき碧潭巨瀑の變化とは、まさに世界一の名山たるの名に恥ぢぬ。さらに學術的價值としても、又グロテスクなる風景郷としても世界第一の鐘乳洞たる鍾龍窟の偉觀は、新興朝鮮の至寶の一つであらう。

又平壤は漢の武帝が衛氏の朝鮮を滅ぼして樂浪以下の四郡を置き、而して程なく、その樂浪郡の中心地となつた。現在その舊址の附近一帯に遺つてゐる同時代の古墳は、その考古學的價值に於て、既に世界的であることは



今更言ふを俟たないのであるが、その後高句麗の占領、高麗の西京、文祿・日清の兩役と算へ来れば、その平壤に於ける史的興味は、溶々として流れる大同の碧流とともに、千古盡くるところがないのであらう。

尙その外此處から鐵路や自動車などの便を借つて、短時間に往復し得られる江西郡や順川や龍岡などの管内には、樂浪郡時代の粘蟬碑や、高句麗の古墳や、それに屬する壁畫なども遺つてゐて、その歴史的と藝術的との價値の如きは全く樂浪時代の遺跡や遺物と肩を比べて、實に東洋に霸たるの概があるものである。さらに又南を望んでは、東洋歴史の一角に華やかなる新羅王都の大舞臺をつとめた慶州がある。今は國亡びて山河空しく、平野と丘陵とが寂漠として相横たはるも、その地形に於て奈良に酷似せるところがあり且又その上代の傳説に於て、日本との間に密接不離の關係があつたりするが爲か、此



鍾 龍 窟



朝鮮ホテル

居る。世界各地に居住して見たが、朝鮮が一番住心地がよいので、その晩年を自分の好きな朝鮮で送るのだといつて朝鮮の古美術などを研究してゐるなどに徴しても明らかである。

朝鮮は緯度から云へば、北緯三十三度六分から四十三度の間にあつて、歐洲の地中海に相當する。しかし半島それ自身が已に大陸であるから、レモンの花黄に咲くナボリの暖かさは南海の一孤島、濟州島（米國陸地棉の最初の試植地として名高い島）に於て漸くこれを見る位で、全鮮を通じて寒暑共概ね烈しく所謂大陸的であつて、春秋の兩期短く、又晝夜氣溫の差が大であるから、中部以北の内陸は寒氣烈しく南部に至つて次第に暖かになるのであつて、氣溫の大體から比ぶれば、京城と盛岡と同じく、木浦は靜岡に相當し、東京は釜山と似てゐるのである。

しかし一年を通じ空氣乾燥して、清朗なる天氣がつゞき溫度に比して肌觸りまことによろしく、最も住み悪いとされてゐる嚴冬の頃も、季節風の盛衰に伴ふて寒氣が消長し、所謂三寒四溫といつて一寒一暖各數日に互つて相交替する爲と、各戸の暖房設備の完備と相俟つて、はるかに内地よりも凌ぎよいのである。京城から東京へ旅行するとよく風邪を引く。實際濕氣を含んだ秩父風が武蔵野を吹く泌みつくような寒さに比べると、溫度は低くとも朝鮮の冬は却つて凌ぎよいといふ奇現象を呈するのである。

## 二

繚亂の春、百花の色彩とりどりに特別に芽えわたるのは、つねに空氣乾燥して大陸的に明澄なるがゆえであつて、馬山・鎮海・京城・平壤の櫻花が内地を凌ぐ美しさを保つのもそのためであらう。

新緑の爽々しさ、紅葉の艶麗さは、まさに朝鮮にとどめを刺す。特に北鮮未開拓の大森林地帯と、金剛山の二ヶ所に於て、そのスケールの雄大なること比類なく、見るもの壯嚴の感を抱かぬものはないであらう。又市街地の近郊にボブラ・アカシヤが滿地に緑の縞を敷く頃ともなれば、紛紅・玉色・雪白、眼もさめるばかりの色彩の裳を纏へる女人の配映が如何に美しきか、清明瀟瀟の氣にみてるそのころの朝ぼらけのすがすがしさとともに、大陸なればこそその感を泌々と味ふことが出来るのであ



佛 國 寺

處の一本一石にも史的の興味が注がれ、王城・陵墓・古墳・佛像・彫刻等に残されたる古代文化の研究價值は、世界の旅人をして常にその杖をとりめて徘徊去り能はざるの情趣を興さしめて居る。

三

今年の十月一日から清津以北の國有鐵道が、清津・雄基・羅津の三港と共に滿鐵に委任經營せらるゝことになつてゐるが、此の羅津が敦圖北廻線の終端港と決定したことは、從來裏朝鮮の奥地に雌伏してゐた勝地が、一躍華やかなる東洋の大舞臺へ登場したことになる。巨費七千五百萬圓を投じて十五ヶ年後に完成さるゝ羅津港が、日本海に向つて堂々たる風姿を横へるの日こそ、日本海中心時代の出現である。蒙古・北滿・吉林を貫く經濟的大動脈が、この港に於て朝鮮鐵道の東海岸線とかたく結ん

で、一路京城の心臟部と連れば、この經濟血管の脈々たる活動によつて、暗き裏朝鮮は明るき表朝鮮と一變して、日本海中心時代にふさわしい飛躍を期待されるのである。すでにこの大勢展望のもとに計畫された當局の北鮮開拓施設は、これに觸發されて興隆せんとする民間諸工業の企畫と相俟つて、北鮮一帯が農・工・商を合しての大産業地帯たらんとし、從來東海岸は海岸線の出入極めて少く、岬灣島嶼稀であつて、地上は不毛瘠地多しとて産業的に、又觀光的に價值稀薄であつたものが、やがて朝鮮新興の先驅を勤めんとするに至りつつあるのである。

羅津を挾んで、雄基・清津の二港が存在することは、羅津のためによりき姉妹である。すつと南下しては工業朝鮮の豪華版、朝鮮寶素の専用港興南の潑刺さを見逃してはならぬ、又城津・元山はすでによく知られた良港であるが、將來北鮮工業化に對し一層重要な役割を勤める



橋 鐵 際 國 們 圖





温陽温泉の神井館

であらう。

南部及西部海岸は大小の島嶼散在し、幾多の鯉灣出入して良港を形成し、長汀曲浦相連つて形勝にも富み、釜山を首め麗水・木浦・群山・仁川・鎮南浦等の諸良港があり、船舶の出入も頻繁であつて、人口密に文化の程度もすでによく進んで居る。この西南海岸は地質學上土地の降沈したものであつて、海岸の出入參差する形狀は千態萬狀の奇相を呈し、俗に多島海と稱し、往昔外國の探險船が迷ひ込み針路に窮したといふ挿話が殘つて居る。

〔 6 〕

#### 四

河の多くは西部の低平地帯を迂迴し、俗諺に名高い滿洲國境の鴨綠江を首め、洛東江・大同江・漢江・錦江・臨津江等の巨川が四季夫々の趣を漾はして流れ、舟楫、灌溉等沿岸民を利用するところが尠くない。北部國境を流

れる豆滿江は、滿洲國の創誕後、間島と朝鮮民族の深き因縁及露領沿海州に接することによつて一段と一つのロマンチックな興味をさへ覺える河となつた。

南に東萊・海雲臺、北に朱乙、中部に儒城・溫陽、西に白川・信川その他尙幾多の溫泉郷の存在することも、自然美朝鮮の一つの誇りである。閑雅、素朴なる朝鮮民族の生活の一断面に接しつゝ、山溪深き原始溫泉の探勝などは全く今後に残されたる妙味である。

#### 五

黃海道一圓にわたる鶴の群棲に至つては驚嘆すべき隠れたる形勝である。やゝ肌寒むを覺ゆる晩秋の頃、嚴冬氷結のシベリア地方を逃れ、その羽ばたきもいと勇壯に、一羽、二羽、十羽、百羽、千羽と大空高く大陸を翔破した丹頂や眞鶴などの大群が、やがて餌を漁る爲めに、冬



平壤の妓生と乙密臺

〔 7 〕



枯れの田圃の中に一つづつ降り立つて、清く氣高いその姿をもつて、悠揚迫らず闊歩するところの壯觀は、東洋に於て朝鮮の外に全く見ることの出来ぬ配景であらう。

## 六

都市美に於ける京城と平壤とは、歴史と傳説との興味を加へて、幾多勝地の構成を完うし、新興朝鮮の大都市として恥かしからぬ文化施設をも備へて居る。詳しくは後章主要都邑の項で説くであらうが、町と自然美に配するに嫵媚楚々たる妓生の古典味は廣く世に知られて旅人の心に新鮮なる叙情を奏でて居る。

## 二、明朗な氣候

### 一

由來日本人は北を嫌ひ、南を好む風習が強かつた。殊に鮮滿の氣候は特別に寒く暗く嫌なところとされてゐた。これは子供のときの教育からして、北は暗く南は明るい地理的實勢を強調して教へ込まれた爲でもあるが、その外に特に鮮滿方面の氣候について公平な認識を缺くについての重大な原因がある。それは日清・日露の兩戰役のとき、軍人が戦地で苦勞をして居る。それに同情して大にその後援支持を舉國的にやらねばならぬといふことから、事實よりよほど悪く紹介され、戰爭當時の軍歌や俗謡で、荒漠療病の僻地とされてゐた習慣が滲み込んでゐるためである。現に最近の國境警備の歌にしても辛苦艱難を具さに嘗める警官に同情するの餘り、氣候に於ては同様の傾向が強調されてゐるのである。

しかし朝鮮の氣候は今日まで世に傳へられてゐるごとくしかく悪いのではない。否、時と所によつては日本内地よりも遙かに住み心地のよさを感じることは、一旦朝鮮に居を構へた者の痛切に感ずるところである。現に今京城朝鮮ホテルにフランス人ゼエ、ナアレーといふ人が六七年ずつと宿泊して



昌慶苑の櫻

る。炎暑堪へ難き盛夏の頃と雖、晝の暑さにひきかへて朝夕の涼味はまことに萬斛である。秋の空の美しさ碧玉のごとく、来る日も来る日も牙え渡つて、風なき半島の小春日こそ一刻千金の價值があらう。況んや一步園を排すれば、薦の紅、楓の錦繡、到るところの山野を彩るに於てをやである。

只朝鮮近海は著名な濃霧の發生地で、就中多島海附近は咫尺を辨ぜざるの日が一ケ年七十日内外に及ぶことがあるが、全般を通じて、内地に比し略九州の南端より北海道の北端までの間に於て見る寒暑と大差なく、濕氣少く空氣乾燥せるだけ、四季を通じ遙かに内地よりも明朗であるといへるのである。

### 三、土地と人

一

朝鮮の面積は、本州より滋賀縣を除いたものに略匹敵し、一萬四千三百十二方里である。その組成別割合を見るに、林野は實に七割三分七厘を占め、畜（内地の田）七分一厘、田（内地の畑）一割二分六厘、堡六厘、其他六分となつて居る。總人口一人に付耕地面積は、内地の一段一畝歩、臺灣一段九畝歩に對し朝鮮は二段四畝歩である。如何に未利用の土地尙廣く、産業上に於て有望なる將來が残されてゐるかゞ覗れる。そしてこの廣い林野内には農耕適地として利用し得る部分が少くない。

戸數及人口は内地人十二萬九千九百四十八戸、五十二萬三千四百五十二人、朝鮮人三百七十七萬二千二百三十四戸、二千三萬七千二百七十三人、外國人九千九百三十九戸、三萬九千五百五十一人、合計總戸數三百九十一萬二千二百二十一戸、總人口二千五十九萬九千八百七十六人である。（昭和七年末統計）

戸數に對する職業別割合は、農林牧畜業七四％、漁業及製鹽業一％、工業二％、商業及交通業七％、公務及自由業者五％、その他の有業者九％、無職及職業を申告せざるもの二％であつて、一見農業國朝鮮の風貌がうかゞはれる。



## 二

さて、土地があり、茲に人が住んで初めて政治機構が必要になる。半島の行政機関の大綱を此章で説かう。

朝鮮總督は天皇に直隸し、諸般の政務を統轄して居る。

田  
最初は陸海軍大將を以て之に充てる制度であつたが、大正八年武官總督の制を改め總督の陸海軍統率權委任を廢し、萬一安寧秩序保持の爲必要と認むるときは、朝鮮に於ける陸海軍の司令官に兵力の使用を請求し得ることになつて居る。その諮問機關として朝鮮人中達識の士を採

舎  
りて中樞院を設け、又地方には、道に參與官を置いて地方官の諮問に應ぜしめて居る。又總督府に總督の補助機關として政務總監(親任官)をはじめ、局長(勅任官)以下約一千六百人の職員が、官房・内務局・財務局・殖産局・農林局・法務局・學務局・警務局の各局課に配屬せられ

又所屬官署として鐵道局・遞信局・專賣局・司法關係官廳・税關・營林署・各種調査試験保護救濟機關等がある。昔鷄林八道と稱した全道が、今は十三道の行政區劃に別れてゐる。京畿・忠清南北・全羅南北・慶尙南北・黃海・平安南北・江原・咸鏡南北のそれである。各道を通じて十四府、二百十八郡、二島、四十九邑、二千四百十五面を有し、道知事・府尹(内地の市長に當る)・郡守・島司・邑長(内地の町長に當る)・面長(内地の村長に當る)があつて夫々一般行政事務を分掌して居る。而して此等官吏中には朝鮮人が多數あり、道知事や本府若くは地方廳の課長等の要職に就いて居る人も相當にある。特に地方行政の第一線に立つ、邑面の職員の殆んど全部は朝鮮人であり、又郡守の如きは朝鮮人が大多數である。大正九年地方制度に大改正を加へ、各地方團體に道評議會、府・面協議會等の諮問機關を設けたが、その成績



朝鮮總督府廳舎



佳良であつたので、昭和五年十二月、一大改正を加へたる地方自治制を發布し、其の内道制は適當の時期より實施することに定めてあつたが、愈々現宇垣總督のもとに、昭和八年四月一日より實施せられ殆んど完全なる自治制度になりたることは、朝鮮統治史上、一新時代を劃したるものと言ふべきである。

### 三

尙朝鮮の人口を説くに於て、在滿朝鮮人の重要性を見逃してはならぬ。殊に滿洲事變が萬寶山事件に近因することを想ひ、滿洲國獨立後に於ける對滿朝鮮移民の切實性が高唱さるゝ際、在滿朝鮮人に對する指導保護、啓發扶掖の必要が痛感さるゝのである。

滿洲事變前に於ける在滿朝鮮人數は約百萬人と稱されてゐるが、實數は百五十萬人に上るともいはれて居る。これは舊時の政治關係により國內の地力荒廢して瘠土となり收穫の乏しき上に、頻々として起る旱魃洪水による饑饉に苦み、遂に滿洲及シベリア方面に無限の大沃野を見出し、續々國境外に移住を企て、當時政府の監視極めて嚴重であつたにも拘らず漁業者は舟運を利用し、農業者は結氷を待つて渡河し、自由の天地に農耕して定着した數は夥しく、既に露西亞及滿洲國の國籍を有し所謂二重國籍を有する者も相當多數である。



間島に於ける朝鮮人經營の水田

然し最近に於ける在外朝鮮人の總數に付外務省の調査に依れば七十萬人餘を示して居る、これとて實際調査不能の所も多いので實數と一致してゐるとは斷定し難いのであるが、其の各地居住の割合は、北米地方に於ける七千三百人、南洋委任統治地域の二百人、露領シベリア地方の十萬人内外、支那本部の三千人、南北滿洲の六十萬人が其の主なるものである、就中間島地方は最も多く約四十萬人を算し、間島總人口の八割を占めて居る、これらの在滿朝鮮人は、平安南北道及慶尙南北道並に咸鏡南北道の者が最も多數を占め、殆んど全部が農業に従事してゐるのである。

總督府に於ては在外朝鮮人、殊に滿洲國在住者に對しては、普通學校・書堂を設置し、病院を設け、隨所に醫師を駐在せしめ救療に従はしむると共に、巡廻施療を爲し或は朝鮮人會に各種保護施設に必要な經費の補助を與へ



極力その啓發扶掖に努めて居る。其の他東洋拓殖株式會社・東亞勸業株式會社・金融會等をして同地方に於ける金融を圖らしめ、殊に東亞勸業株式會社及東洋拓殖株式會社に補助を爲し安全農村及自作農創定部落を設置し鮮農の福祉増進に努めつゝあり。尙朝鮮人視察團を招致して新施政の實際を見聞せしめ、巡迴講演を試み、活動寫眞を觀覽せしめて、趣味の中に朝鮮を理解せしむるに努むる等各種の施設を爲し、更に旱水害、雹害等に際しても夫々救恤の方法を講じ、此等の保護撫育事務に従事するため、滿洲國駐在本邦領事に總督府事務官を兼任せしめ、又必要の地點には總督府官吏を駐在せしめ、専ら總督府施設の實現と在外鮮人の指導保護とに當らしめて居る。

#### 四

また朝鮮人の内地渡航者も近來著しく増加し、大正四年に僅三千九百八十九人に過ぎなかつたものが、最近統計に於て約三十萬人を算して居る。大正十四年以來、内地渡航制限を復活して、勞働者の漫然渡航を保護してゐるが、生活の必要に迫られて内地へ渡航するものゝ増加は年々避け難い状態である。

これ等朝鮮人は大阪府約六萬人、東京府約三萬人、福岡縣約二萬人、愛知縣約二萬人、兵庫縣約一萬五千人、京都府約一萬五千人、その他全國に散在し、その原籍地は多く南鮮地方の者大部分を占

め、殊に勞働者の如きは、全羅南道濟州島の者が最も多いのである。滿洲・シベリア方面への農業移民が北鮮地方より輩出するのとまことによき對照をなして居るが、これは地理的關係の然らしむるところである。

#### 四、併合の由來と統治の方針

一

内地と朝鮮とは古來その關係極めて密接であつて、多くの歴史的交渉を有してゐる。地理上から見ても、日本海を湖水に見て眞に一衣帶水の地であつて、民族の血脈も相通つてゐるものが少なく、英國の人類學者ヘンドンは東洋に於ける最も美しい人種は高麗人種であつて、その血液の五割は日本人に流れてゐると發表してゐる位であつて、同種同文元來融合し易い素質を備へてゐるのである。

殊に支那の儒教や印度の佛教、その他諸般の文物制度等も、朝鮮を経て我國に傳はつたことは、史實に明かである。

日韓の歴史的交渉には、古來幾多の變遷を重ねたが、明治時代に至つて、明治九年には日韓修好條約を締結し、同十三年には帝國公使館を設置し、朝鮮の獨立自主權を明かにしたが、同三十八年に至り新に統監府を設置して政務を刷新し、特に産業・教育・金融等諸般の改善に着手させ、又無利子無期限の立替金を韓國政府に提供し、施設改善に伴ふ政費の膨脹に應ぜしめたのである。

かくて韓國は漸次各般の方面に於て面目を改めて來たが、其の治安は未だ保持せらるゝに至らず、

稅政の積弊容易に改めることが出來ず、之に根本的革新を加へ、庶績を擧げ民衆の福利を増進せんが爲には、彼我兩國合體して局面の展開を圖るの外なく、當時韓國に於ける最も進歩せる智識階級の一團體たる一進會の如きは、自ら進んで日韓併合を提唱し、兩國併合が、其の發展の爲にも東洋平和確保の爲にも最も適當な處置であることを建白した。爾來兩國民心が愈併合に傾いたので、遂に、明治四十三年八月二十九日兩國國民永遠の福祉、東洋永遠の平和確保の爲に併合するに至つたのである。

こゝに於て韓國の國號を改めて朝鮮と爲し、朝鮮總督府を設置し朝鮮總督をして天皇に直隸し、諸般の政務を統轄せしむることとなり、行政百般の機關を整備し、秩序の回復・治安の維持・各種施設の改善・教育の普及・産業の助長等に努むること茲に二十有四年、半島今日の平穩と文化の發達並民力の向上充實を見るに至つたので



内地の村役場に當る事務所

ある。

## 二

統治の大方針は實に一視同仁の 聖旨を奉體して民衆の康福を増進するにある。歴代の總督皆此の方針に則り、治安の維持・文化の普及・産業の開発に力を盡し、又時代の推移と實情の變遷と共に伴ひ適切なる政策を實施し來つたのである。

現總督昭和六年六月就任以來統治の方針具體化せるものに、數年ならずして年産額數千萬圓に達せんとする産金獎勵。

鐵・石炭及黑鉛・マグネサイト・タングステン・明礬石・水鉛等の稀金屬鑛業の獎勵。

棉花三億萬斤の増殖計畫。

二百十六萬町歩に亙る密林地域たる北鮮開拓事業。

蠶羊事業獎勵・羊毛増産計畫。

田畝作物の増收計畫に依る鮮内食糧充實。

農家經濟安定策。

鹽田の擴張計畫。



農 村 婦 人 も 更 生 へ

交通通信の充實。  
國境警備の完璧。  
農山漁村の振興、自力更生運動。  
電力統制の確立。  
水産業の振興。  
等を擧げ得る。

此の各般國家資源、忘れられたる遺利の再檢討と開發は總督府が最近最も努力を傾倒せる施政の一方面である。農山漁村振興運動は農民が住民の約八割を占める朝鮮に於ては全鮮の更生運動である。精神的開發の基礎の上に農山漁村經濟更生の殿堂を建設せんとする此の運動の氣運は今や全半島に横溢し、最近の朝鮮を觀る者の看過すべからざる事象でなければならぬ。

現總督はその統治方針の中心は飽まで「同胞九千萬の觀念による物心交叉」であるべきことを唱へてゐる。即

ち眞の内鮮融和は同胞九千萬といふ言葉で代表されねばならぬ。朝鮮在住の五十萬人程の内地人と朝鮮人との融和合體、又内地に働く約三十萬人の朝鮮人が業を樂しむ事であると考えべきでない。全内鮮の精神的融合と、物質的結合の二つを確つかり結び付けねばならぬ。これが朝鮮統治の眼目であるのである。

朝鮮が地上地下及び海洋に保有する豊富なる資源の開発に對する全内鮮人の協力提携と、渾然融合せる精神的結合と相俟つて、内鮮一元一體たるに於て、朝鮮の前途は實に洋々たるものがある。甦生朝鮮の光輝ある前途は、期して待つべき情勢にあると謂へるのである。

## 五、施政の實績

### 一

明治四十三年八月、日韓併合の條約公布せられ、我が國が朝鮮統治を開始してより星霜茲に二十餘年、此の間我國は朝鮮に於て何を爲したか、即ち朝鮮統治上如何なる施設計畫を遂行し、半島の産業文化を如何に向上發展せしめ得たか、又朝鮮の民衆をして如何なる惠澤に浴せしめ得たであらうか。

先づ第一に我國が朝鮮に與へた最も重要なものは、社會の安寧秩序の維持といふことである。併合前の韓國の社會狀態に比べて、往時を知れる一外人はその著書中にかう書いて居る。

「日露戦争後二十五年間と云ふものは、彼等の所有する田畑が、兵馬の爲に辟道一隅たりとも損はれたことはない、勿論他國の侵略を蒙つたこともない、又一度たりとも掠奪に遭つたことはない。田園生活の平和は斯くして亂されないのである。朝鮮人は對岸の支那人が革命戦争の爲に戦々兢兢として國境を越え、彼等の領土の山谷に避難して來るのを目撃して氣の毒に思ふて居る。彼等は二十數代を経て、漸く今日始めて他國の侵略から免れてゐるのである」と。

この一節は何よりも明確に我國統治の實績によつて、如何に平和なる朝鮮が現出したかを裏書きし



て居る。

二

治安維持のその後に來るものは當然人文の發展策である。既に統監府時代より近代的教育機關の



朝鮮人の姿容

教育及中等教育については、國語を常用する者と然らざる者とに分つたのである。これ朝鮮人にやは

整備に努力を傾注してゐたが、併合後の明治四十四年八月朝鮮教育令を公布し、教育勅語を奉戴して忠良なる國民を養成するを目的とし、且つ實際に適する簡易實用を旨とする朝鮮人教育の方針を樹てたが、大正十一年更に教育制度を改正し、學制全般に亘つての大刷新を行ひ、内鮮人ともに同一の教育制度による主義とし、只普通

り特殊な科目、例へば朝鮮語、朝鮮歴史等を授けんとする意圖に出づるものであるが、國語を常用する者の爲に小學校・中學校・高等女學校を、國語を常用せざる者の爲に普通學校・高等普通學校・女子高等普通學校を設立して居るが、内鮮人相互に入學することも少しも差支へなく、現にこれを實行してゐる者も多數に存在する。

現在一千八百六十二の官公立普通學校と八十の私立普通學校があり、如何なる山間僻地と雖も學校なきところは殆んどなく、兒童數の如きも内鮮人併せて約五十萬の多きに上るのである。

併合前の官立、公立を合せて普通學校の數九十四校、兒童數一萬二千、之に私立學校を加へても一萬五千に達しなかつた狀況に比し實に隔世の感である。

その他京城の帝國大學を首め、各地に散在せる十五の官私立専門學校、五十七の各種實業學校、八十八の同補



今春昇格せし平壤醫學專門學校

修學校、三つの官立師範學校其他多數の中學校、女學校等が各地に在つて、半島の文運愈隆々たるものがある。英國の或殖民政策の研究家が「日本はその殖民地に對し、まづ學校と病院を建てる、感すべき事である」と評した言葉が首肯されるのである。

### 三

既刊の

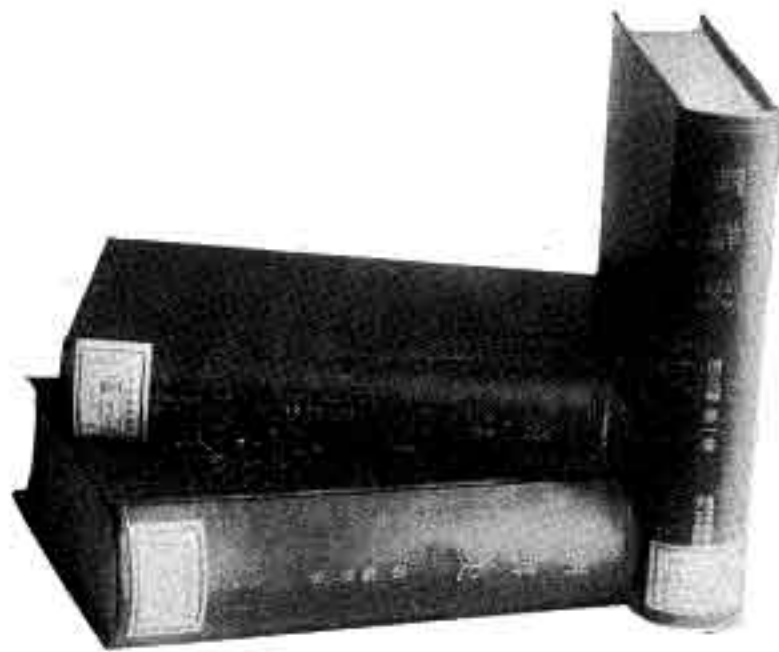
その他一般の文化施設として、

朝鮮 一 舊慣及制度の調査を行つて、出來得る限り法律の上などに於てもその慣習を尊重し、

史 二 古蹟調査を行つて、半島三千年の文化を究明し、日本古代史又は支那上代文化の研究にも多大の貢獻をなし、歐米學界に於ても大に認められ、

三 朝鮮語綴字法の研究と辭典の編纂を行つて、難澁な諺文語法、綴字法のごときものを整理釐定し、

四 古圖書及金石遺文の蒐集保存を試みて、貴重なる朝鮮古圖書十六萬四千五百冊を保存してその



散佚を防ぎ、又朝鮮に現存する總ての金石文を拓取し、整理保存して學術上の參考に資し、

五 古社寺の保存を行ふて、半島史實の證徴、東洋藝術の資料を保護し、

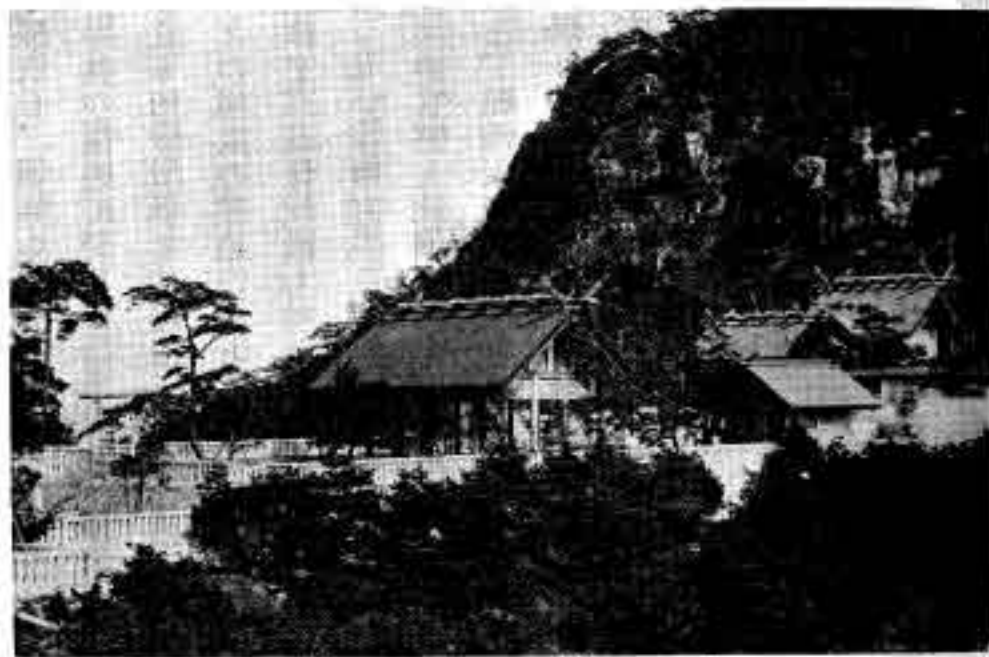
六 朝鮮史の編修を爲して、朝鮮史實の究明を試み、正確なる史實を後世に傳へんとし、

七 朝鮮美術の獎勵を試み、往時の發達に比肩するの域に達せしめんとして、毎年鮮展を開催して、朝鮮美術の振興に寄與せんとし、

八 儒學の振興に努め、連綿たる古來の學統を傳へんとして、經學院及明倫學院を設けて、有爲の人材を養成して居る。

### 四

その他宗教の自由を認め、李朝時代に於ける極度の佛



朝鮮神宮



院醫屬部學醫學大國帝城京

教抑壓政策を解放し、朝鮮寺刹令を公布して三十一の本  
山を指定し、佛教の復興に努めてゐる。佛教は内地人の  
間には信者多きも何分僧侶を八賤の下として社會の最下  
層に置いたほどの極度の壓迫のあととして、鮮人間には今  
尙廣く布教されず、基督教最も勢力を占め、他に天道教  
侍天教等の新しい宗教類似團體等が興つて居る。

朝鮮の總守護神官幣大社朝鮮神宮は大正十四年建立さ  
れ 天照大神と、明治大帝の二柱を奉祠し、内地人崇敬  
の的となつて居り、その他各地に神社、神祠の設立を見  
るに至つたが、朝鮮人も漸次之に禮拜する様になつて來  
つゝある。

## 五

衛生状態に於ては、傳染病・地方病等四時絶ゆる時が  
なかつた昔時の幼稚な状態に比し、近來その思想の向上

と、設備の完備は眞に隔世の感がある。現在醫療機關として京城には帝國大學及官公私立醫學專門學  
校の附屬醫院、赤十字病院等を初め多くの私立病院を有し、又地方には各道に三十餘の道立醫院・警  
察醫・公醫・一般開業醫等あつて、人口約一萬二千人に醫師一人の割合である。

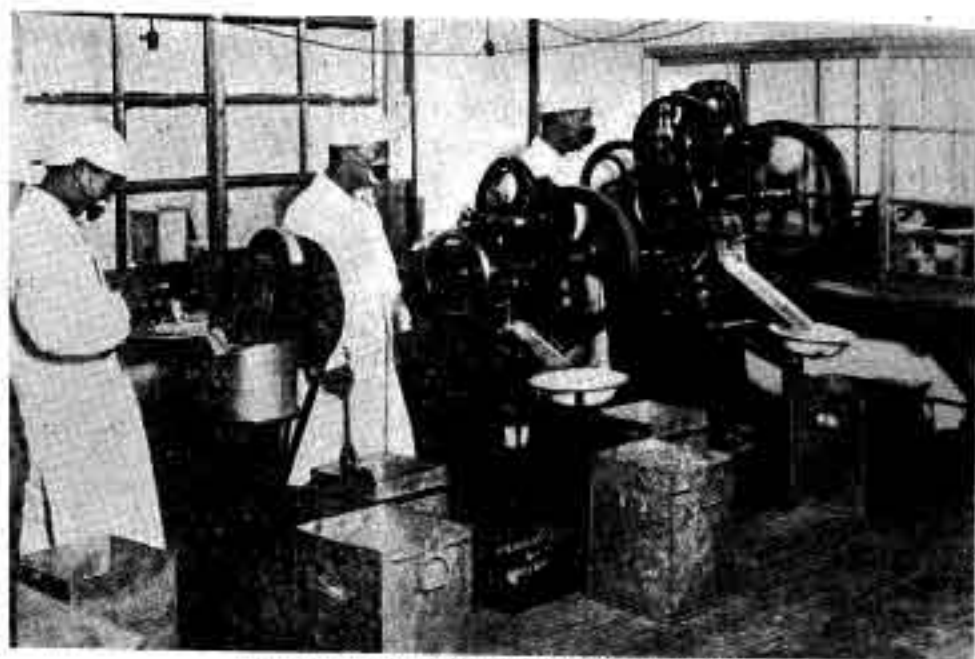
癩病の恐るべきことや、癩患根絶の必要は今更云ふまでもないが、朝鮮では八千乃至一萬の患者が  
あり、官私立療養所併せて僅々二千五百人を收容治療してゐることは、洵に遺憾な状態である。依つ  
て之が根絶を期する爲一大療養所の設置を計畫し、昭和七年十二月今井田政務總監その他の有志によ  
り財團法人朝鮮癩豫防協會を設立し、世人の理解同情に訴へて寄附金の募集に着手したところ、同情  
金は翕然として集り、寄附見込額の三十五萬圓を遙かに超過する百十一萬餘圓にも達した。之に 皇  
太后陛下の御下賜金、李王殿下の御下賜金をはじめ國庫補助金の十一萬圓、道費補助金の十七萬圓等  
を合すると約百五十萬圓に達するといふ大資金を得たので、氣候溫暖にして而も一般社會をおびやか  
さず、又患者療養施設の完璧を期する等の點に恵まれた全南小島に、愈一大療養所を建設するの具  
體案を進め、之が實行に入つたのである。

一方上下水道の完備・藥品・食物の取締・傳染病獸疫の豫防・癩患及モルヒネ中毒者の治療・海港  
檢疫・汚物處分等の醫事行政につきての指導改善は着々進行し、衛生状態は逐年その面目を改めつゝ  
ある。



朝鮮では古來佛教の影響を受けて慈悲を以て君徳とし、歴代其の政を誇るの事績として之を挙げ、高麗朝時代に於ては或は常平倉を設けて備荒の策を講じ、或は義倉を設けて施餓救貧に備へ、或は又大悲院を設けて救療を施す等の救済事業が發達したが、李朝となつてからは儒教の精神に基き益其の制度を擴張して救済に國力を傾注し、更に各種の救済施設を實行した爲、遂に濫救の弊を生じて懦弱の風を馴致するの結果となり、李朝末期に至つては諸般の弊政と共に幾多の弊害を醸成するに至つたので、其の多くが廢止せらるゝに至つた。然し併合後は諸般の制度改まると共に、社會事業は朝鮮の民度、習俗、産業其の他諸般の實情に鑑み、之に適應するの施設を實施するに努めつゝあるが、一般的の救済方面に就いて之を見れば、併合の際御下賜せられた恩賜金一千七百三十九萬餘圓の外、皇室より屢御下賜された恩賜金によつて、造成された罹災救助・窮民賑恤・行旅病人救護等の資金約百五十九萬九千餘圓があるのみでなく、本府及道より臨時に必要な救済費を支出して居り、尙且つ皇室からは以上の外、朝鮮の災害に際して時々罹災民に御下賜金があり、其額併合以來今日まで二十五回二十一萬六千六百餘圓に上り、民衆齊しく其恩恵に浴して居る次第である。

次に又財界不況に依る窮民救療の資としては、昭和七年度以降朝鮮に對し今後三年間毎年七萬五千



恩賜救療施設急救箱藥品製造状況

圓を下賜せらるゝ旨御沙汰を拜したので、本府は直に聖旨を奉體して之に國費八萬餘圓を加へ、恩賜救療計畫を樹立し、救療箱及診療券の配付並に入院救療等を實施してゐるのである。

尙、救済事業の外には各種の福利施設を行ひ、公設住宅・公設市場・共同宿泊所・簡易食堂・共同浴場・公益質屋等の諸設備が普く各地にあり、小額生業資金の貸出等も行はれ、又職業紹介・社會教化・民風作興・地方改良・兒童保護・釋放者保護・施藥・救療機關等、社會事業施設の總てが逐年整備充實しつゝあるのであるが、斯くの如きは韓國時代には全く見ることが出来なかつたところである。

## 七

警察制度は略内地と同様であるが、治安の維持と國境



の警備とは、朝鮮警察事務として特に重要視せらるべきものであるが、鮮内の治安は今日よく保たれて居る。

國境警備は朝鮮の疆域が露滿兩國に接して蜿蜒八百餘里に及び、時に匪賊の侵入、時局標榜の強盜が出沒し、或ひは密輸の往來等仲々警備困難なる狀況下に置かれて居るので、江岸より五里乃至十里に亙る區域を定めて、駐在所・派出所を配備し、警官約二千三百人がその衝に當つて居る。

駐在所の外壁に銃丸防止の裝置があつたり、周圍に塹壕を掘鑿したり、機關銃を備へたり、交通壕を堀つてあつたり、いつも戦時氣分であつて、婦人も日頃射撃の演習を爲し、非常の際に備へる等は悲壯であつて、その勤務振りは仲々辛勞が多く同情に堪えない。

警官は全鮮で一萬八千七百餘名(内朝鮮人八千百餘名)居るが、その一人當負擔は面積一二・六方軒、人口千四百九十九人であつて、如何に其の負擔が過重であるかは次の表を一見すれば明らかであらう。

各地警察官一人當負擔面積及人口比較

朝鮮	一二・六〇	一、一四九
内地	六・五六	一、一一二
臺灣	四・九五	六三二
樺太	七・四三	六〇七

關東州

一・七七

六三二

## 八

司法制度が完備して、鮮人間に於て非常な信頼をうけてゐることは往時を回想すれば感慨に堪えないものがある。裁判所制度は内地と同じく三審制であつて、朝鮮總督に直屬して居る。

陸軍は第十九・第二十の二ヶ師團があり、朝鮮軍司令部に於て諸部隊を統率し、同司令官は陸軍大將、又は中將を以て之を親補し、天皇に直隸し朝鮮の防備に任じ、鎮海灣と永興灣とには要塞司令部があつて、該司令官は朝鮮軍司令官に隸して居る。

別に京城に朝鮮憲兵隊司令部があり、又海軍は鎮海に要港部があり、朝鮮全岸及對馬海峽の防衛竝に警備を掌り、併せて軍需品の配給を爲して居る。



西大門刑務所



京 城 驛

を見んとして居るのである。而して鮮内鐵道は概ね廣軌で、幅員一米四三二耗で車内の設備とその乗心地は遙かに内地鐵道を凌駕するものが多い。

道路は一等道路三十八線、二等道路八十八線、三等道路四百二十一線、總計二萬四千八百四十耗の道路網が全鮮を縦横に馳驅し主要地間は悉く連絡され、自動車運輸亦一萬七千二百八十五耗に上り非常なる發達をなし、港灣は夫々整備し、釜山・下關の如きは四千噸級の快速船が八時間で連絡し大に鐵道運輸を助けて居る。河川に於ける舟楫の便も相當に開け、殊に冬凍期に於ける氷上輸送は一つの名物として觀光の價值大なるものがある。

更に昭和四年より、日本航空輸送會社によつて、内地朝鮮及滿洲を連絡する定期航空輸送が開始せられ、現在一週六往復を實施し京城・平壤・新義州・蔚山に飛行場があり、福岡・大阪・東京及大連並に滿洲航空會社の經



京 城 飛 行 場

## 六、飛行機は縦横に飛ぶ

一

韓國時代に於ける交通・通信の設備はどうであつたか鐵道は明治三十三年京城・仁川間に通じたのみで、交通は専ら道路に依つたのである。其道路も一部は保護政治時代に修築を加へたものであつて、多くは道路らしいものではなく、旅客は畦畔を辿り、貨物は人肩馬背に依るの狀態であつた。

然るに今はどうであるか、國有鐵道の全線延長實に三千四十八耗餘に達し、(昭和七年十月現在)尙建設中のものに、平元線・東海線・慶全線・滿浦線・惠山線・北鮮拓殖線等があり、私設鐵道の延長も亦、開業線一千二百五十一耗、未開業線三百二十一耗に達し、將來益其延長

營線たる滿洲各地の定期航空線とも連絡してゐるが、陸に廣軌鐵道、海に巨船、空に旅客機縱横に飛ぶ現在の交通網を、荷物を背負ひ畦道を辿りつゝ長途の旅をした僅か二十數年前に比較して、眞に隔世の感を抱かぬ者があるであらうか。



路道間江美州清るあ木並ラブボ

話線の特設により、内地との直通電話が手にとる如く明瞭に對話される等、次第に遺憾なく整備され郵便物の遞送に付いても、鐵道の利用し得られざる方面には自動車及自轉車遞送を行ひ、送達日數の短縮を圖り現在では如何に僻遠の地と雖も、郵便物の集配を見ざるところなきに至つて居る。

二

## 七、産業朝鮮の全貌

一

朝鮮の爲に我國は幾何の國帑を費やしたかといふことは、財政及産業を説く上に於て極めて密接不可分の關係に置かれて居るので之を略叙する。

我國が東洋の禍亂の中心たりし朝鮮を安定し、東洋の平和、我國の安固を期する爲に日清・日露の兩役に莫大な犠牲を拂つたことは申すまでもないことであるが、かゝる犠牲は別として、朝鮮開發の爲直接投下したる金は、軍事費三億三千四百八十萬餘圓、行政費二億九千七百七十八萬餘圓が支出され、又民間資金として、貿易外の原因により内地から約十九億圓が投資されてゐるのであつて、合計約二十五億の巨額の資金が朝鮮に投下され、交通・通信・産業等の發展の資となり、それが油となり、肥料となり以て半島今日の繁榮を築いてゐるのである。

二

次に財政方面はどうであらうか、明治三十七年十月我國より財政顧問を設置し、鋭意刷新に努力せ





朝鮮銀行

し當時より特に韓國の財政とは密接な關係を有してゐたが、後統監府の設置せらるゝに及び、明治四十年より、六ヶ年間に我國より總計一千九百六十八萬二千六百二十三圓を無利子無期限を以て貸付したのであつた。さらに明治四十四年以降は中央政府の一般會計より毎年一千萬圓乃至一千五百六十萬圓の補充金を支出し、その財政を助けて居る。(大正八年一ヶ年だけは、朝鮮特別會計の獨立計畫の爲補充金を受けず)

明治四十四年度に於て、四千八百七十四萬一千圓なりし總督府特別會計の豫算は、昭和八年度に於て經常、臨時を合し二億三千百十二萬二千四百九圓となつて居る。

尙道路修築、海關工事、並に鐵道の建設及改良等、朝鮮の開発に必要な繼續費は公債によつて支辨せられ、その額現在六億三百七十萬圓に増大して居るが、これに對して昭和五年度以降國債償還資金制度を設けて、その

償還の途を講じつゝある。

### 三

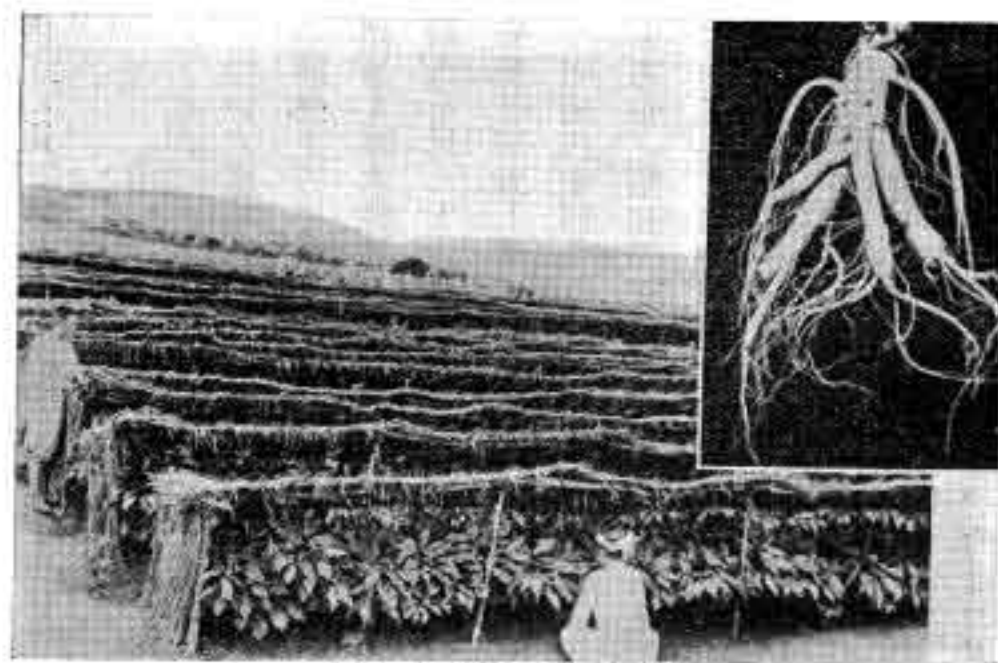
ついで産業朝鮮の叙述に及ぶ。朝鮮はその地勢・風土の關係上古來農を産業の大宗とし畜産・林業・礦業・水産等も漸次發達し來つたが、近時工業方面も長足の進歩發達を見んとするに至り、全産業機構に互り活氣横溢の形勢を馴致し來つてゐるのである。

明治四十四年の生産總額は四億七百七十三萬八千圓であるが、昭和三年には十七億七百九十一萬三千圓となり昭和五年には物價値下り及び畜産額に於ける牛・馬・豚の勞力及厩肥の見積價格を計上せぬ等の關係もあり十二億圓となつて居る。

生産總額十八億圓中農産物はその六割を占めて居る。總人口の約八割は農民であり、内地の五割強と比較して



東津水利組合の雲岩貯水池



人蔘及人蔘耕作状況

著しい差があり、重なる生産物は米・麦・豆類・雑穀・人蔘・棉花・煙草・繭・麻・蔬菜・果實等内地の農業と殆んどその系統を同うして居る。

耕地面積は四百三十八萬町歩であつて内、沓（内地の田）が百六十萬町歩である。此處から年々一千五六百萬石の米が生産され内地へ年々六七百萬石を移出し、その額一億一千萬圓に及んで居る。近時米作技術の一般的進歩と産米増殖計畫の樹立による結果とであるが、尙逐年増産の見込みである。

麦は主として農家の食糧用として増産を圖りつゝあり年額約九百四十萬石を生産する。

朝鮮大豆は品質頗る優良で、殊に蛋白質に富み豆腐・味噌・醬油等の原料として喜ばれ年産四百萬石、移出品としても米に亞ぎ一千四百萬圓に達して居る。

果實も各地に産し、特に栗・林檎・梨等は風味よく内

地・シベリア・滿洲國等漸次鮮外に於ける聲價を高めつゝある。

朝鮮人蔘は、開城附近を主産地とする。植えて六年目に之を採取し、其製法によつて紅蔘と白蔘とに別れ、紅蔘は專賣制度となつてをり、支那を主としてその他、南洋方面へ向け毎年約三百萬圓輸出せられてゐる。

煙草は紅蔘とともに專賣制度であるが、産額約六百萬圓に達し品質佳良である。

蠶は朝鮮の氣候風土に適し、勞力も豊富であり、農家の副業として最適であるので、産繭百萬石を標榜し熱心に指導獎勵をなしつつあるが、現在すでに五十八萬石に達し、この状態に伴ひ蠶種製造、桑苗の生産は勿論製絲工場の新設さるゝあり、製絲業も漸次勃興しつつある。

#### 四



棉花の採集





牧放の羊綿るけ於に北咸

棉花は現下の國策經濟上より見て總督府に於て最も力を注ぎつゝある農業生産物の一である。昭和八年度に於ては棉作獎勵金を二十一萬八千九圓に増加し、第一期三億萬斤増産を目標に米國陸地棉及在來棉の栽培を獎勵しつゝあつて、現在の産額は年額一億六千萬斤、六百八十餘萬圓である。優良種米國陸地棉は主として京城以南の地に栽培好適地が多いのであるが、在來棉は以北各地に栽培せられ收穫量も多く、分栽宜しきを得れば全鮮到るところより棉花を産するのである。

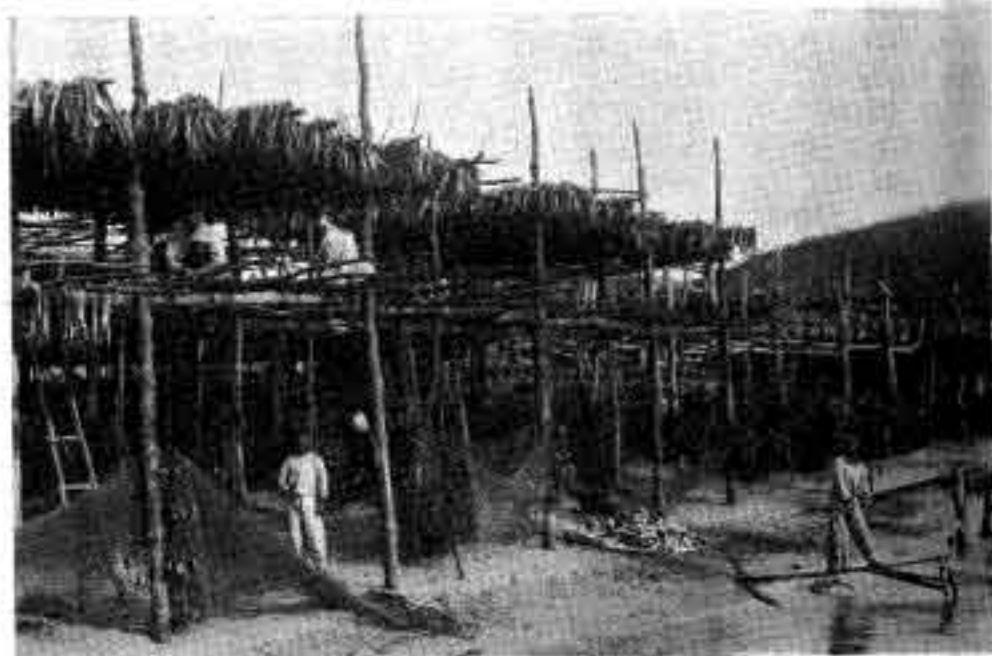
畜産は牛を以て最とし、その畜牛數百七十萬頭に及んで居る。年々移輸出するもの六萬頭内外、その價格二百四十餘萬圓に達するが、馬・豚・鶏等も相當産額を有し特に綿羊に至つては、現在の飼育頭數は僅かに二千餘頭であるが、その氣候風土に於て最適なることが試験され棉花と同様國策經濟の將來に於ける重要位置を占むるも

のなる自覺のもとに、既に民間に於て飼育並にホームスパン製織計畫等、着々進行中にあり。朝鮮人の愛畜心に富めると、天性手工業に巧妙なる點等相俟つて非常な期待を以て、見ることが出来るのである。

## 五

水産は農業に亞ぐ重要産業である。三面海に圍まれ、海岸線の延長長く地勢・氣候・海流の關係等にて水族頗る豊富なるが故である。水族中の重なる種類は明太魚を首め、南鮮の鯛、黃海の石首魚、東海岸の鯖・鰻等二十數種に及び、その年産漁獲高五千餘萬圓、養殖生産高二百三十餘萬圓、製造高三千餘萬圓に達してゐる。

總督府に於ては尙、生産漁撈の方法より、製造養殖に至る各方面の保護獎勵取締をなす一面、これが販路等についても統制に乗り出し、漁撈者の共同利益を圖る等各



燥乾の魚太明



種の助長施設を加へつゝあつて、生産業は益發展の趨勢にある。

特に右の漁獲物中、鰺は世界有数の産額に達し、その製造加工によつて、漁油より硬化油となり、グリセリンを採取し、これに硝酸を配合すればダイナマイトに轉身し、軍事上の貢獻をなすのみならず、又文化生活上の必需品たる石鹼・蠟燭・人造バター・脂肪酸等にもなり、多額の輸出を行つて、朝鮮水産界の爲に氣を吐いて居る。

## 六

鹽も海水生産品の一つである故此項で説かう。この朝鮮産鹽は年産約二億六千萬斤を産するのであるが、その大部分は專賣局鹽田に於て生産せられる結晶粒粗大の天日鹽である。朝鮮人は好んでこれを使用するのであるが、價格は平均して百斤當り約一圓であつて、内地に比較して約三分の一に當り隣接地滿洲に比較して約十分の一にしか當らぬのである。

この鹽の價格の安價なることは、我國が植民地行政に就きて、全く搾取なき善政を敷ける證據として、諸外國に誇るべき文化的鹽政である。インドがまづ鹽の高價を叫んで、ガンヂーの無抵抗不服従運動となり、隣國支那の軍閥が民度の低い民衆に就て、最も簡單なる擔稅力ある鹽の釣上げを行ひ、



世界一の高價なる鹽價により國民から血稅を搾つてゐる等に對し、内地より尙三分の一の安價なる鹽を供給されてゐる朝鮮人は幸福といはねばならぬと思ふ。しかも尙約二億八千萬斤の不足を補充する爲に二千二百町歩の鹽田擴張計畫が目論まれ、其の一部が昭和八年度から實行されつゝあるのであつて、天日製鹽の將來も尙仲々有望である。

## 七

朝鮮の山と云へば、内地に居る人は直ちに禿山緒丘の相連るものゝみであるが如く想像せられる向もあるが、朝鮮から年産約六千萬餘圓の林産を産して居ると云へば異とせらるゝであらう。元來朝鮮は山國であつて、林野は全土の七割強に當り其の面積は一千六百四十九萬町歩に達してゐるのである。然し往昔は林政の不備に加へて

愛林思想が乏しかつた爲、總督府施政當時に於ては鴨綠江・豆滿江の流域を除く他の多くの林野は極度に荒廢してゐたので、此等の荒廢を回復し林野の保護經營を爲すは林政上の急務なるのみでなく、治水に欠くべからざるものであり又産業助長の一助であるから、總督府に於ては國有林に對しては營林署及保護區等を設けて直接之が保護經營に當らしめ、或は造林貸付を爲し成功の曉には之を無償譲渡する等民間に解放の途を開き、又民有林に對しては之が伐採を制限し、或は必要なる箇所は保安林に編入すると共に造林補助金を交付して殖林の促進を圖り、或は砂防工事を施して荒廢林野の復舊に努める等林野の保護、愛林思想の涵養に努めた結果、他の諸施設と相俟つて今日の如き產額を生ずるに至つたのである。

而して朝鮮に於ける樹種は針葉樹六割餘、闊葉樹三割餘で鴨綠江・豆滿江流域には二百四十餘萬町歩の處女林



鴨綠江上流の森林



砂防造林の初年

砂防造林の八年目

があつて、莫大なる材積を包容して居るので、此の地方を開拓し數億萬尺縮の木材を採伐し、農耕適地を拓き、朝鮮林政の痛と迄言はるゝ數十萬の火田民を上着せしめんとする一大計畫の實行に着手せられたのである。

## 八

鑛業朝鮮の將來には尙幾多のXを含んで居る。最近咸鏡南道に於けるマグネサイト大鑛床の發見、内地には全く産出せざるアルミニウムの原鑛明礬石の全南大鑛脈發見等はまことに近來の大收穫ともいふべきであるが、尙鑛業の歴史若きだけに、雌伏せる地下資源に對しては將來多大の持望を持つことが出来るのである。

既往に於ける鑛業の發達段階には、時に消長はあつたが近來金を筆頭として採鑛事業著しく發達し、鐵・石炭・黒鉛・銅・亜鉛・タングステン・水鉛等を出し、硝子原

料の硅砂、陶器原料の高嶺土等も良質のものを多量に産出し、其年額約二千二百萬圓に達し、鑛區數二千三百九十に上つて居る。鐵の如きも現に内地の三倍を産し、尙且五〇%以上のもの一千萬噸、四五%以下のものを合すれば五億噸の埋藏量が推定され、石炭の如きも良質の平壤の無煙炭を筆頭に、咸北方面を合すれば尙十七億噸の埋藏が推定され、最近この地方の褐炭によつて、石炭液化の化學事業が發明され着々工業化されつゝある。

總督府に於ては朝鮮鑛業令以外各種の法令を制定して保護獎勵を加へつゝあり、又地質調査所及燃料選鑛研究所を設置して鑛床の調査、選鑛製鍊の試験、石炭の調査及試験をなす等其發達に努めて居る。特に最近採金熱の勃興と共に、朝鮮産金の獎勵助長の爲め金探鑛獎勵金交付規則を發布し、その生産増加に對し、基本的獎勵を加へて居るのである。



山鎮洞楡大の道北安平

## 九

慶州の大建築物、高麗燒の青磁、白銅の鏡、千古不變の漆器の如きは、斯界研究家の垂涎措かざるところであつて、往時如何に朝鮮に於ける此の種工業が發達してゐたかを窺ふことが出来るのであるが、次第に衰微し併合前には殆んど見るべきものがなかつたのである。

併合後總督府に於ては、中央試験所・工業教育機關等を設けて、技術の練習指導に努むると共に補助金交付の方法等により之が發達助長を促したる結果、技術進歩し、製品は改良せられ、産額も亦増加し、一方に於ては一般鮮人の工業に對する思想も啓發せられ、内地工業家も次第に進出して、家内工業の發達と共に漸く工場組織による工業の經營も起るに至り、大規模の水力發電事業を初め、鮮人側には機業・窯業・製紙・醸造・金屬製品、内地人側には精米業・鐵工業・窯業・セメント・醸造・製糖・製材・製革・石鹼製造・繰綿・紡織・電氣等あらゆる方面の工業發達し殊に最近咸鏡南道興南に於ける、建設費一億一千萬圓、十八萬キロワットの發電所を有する世界第二の窯業肥料會社、平壤には外國人經營の澱粉製造會社等の設立を見、引つゞき仁川には東洋紡績會社、永登浦に於ては大日本及キリンの二大ビール會社、鐵原には鑛紡の人造絹絲工場、興南に於ける製鐵所等夫々新設決定し



既に着々工事進行中のものが多く、近時の朝鮮工業界は著しく活況を呈するに至つて居る。

しかして原料豊富で、労銀安く、動力又無限の未開發水電を控へたることは、將來益各種工業の發展に便せられ内地資本家の企業進出を待望されて居るのであるが、特に動力問題に於て最も重要視す



朝鮮空肥料社第一發電所水管

べき電力統制問題が現總督のもとに於て決定し、實施せらるゝに及びたるは、電氣事業史上劃時代的事象ともいふべく、内地に於て多年本問題が行き悩み今尙その大綱すら内定せざるうちに、朝鮮に於て迅速にこの決定を見、安價なる電力を豊富に得らるゝといふ工業培養に基幹を樹立し得たことは、農業國朝鮮より工業國朝鮮への躍

である。

10

朝鮮の商業は、今尙古來の風習による市場取引が盛んであつて、一つのローカルカラーを爲して居る。京城・平壤・釜山・大邱・開城等の如き豪商の集り住んだ地を除いては今尙常設店舗少く、多くは市場に於て賣買せらるゝのであるが、この市場は五日目毎に一定の場所に於て開市せらるゝのが普通で常置のものは少く、當日は近郷三里五里の道を遠しとせず各自の生産物例へば米・粟・大豆・小豆の如き穀類、麻織物・紬・草鞋・薪炭・魚貝を始め日用小雜貨・藥草・牛・馬の類に至る迄互に持寄つて之を賣買し又貸借勘定等も此機に於て行はれるのである。



常設の京城東大門市場



内地の質屋に當る典當舖

引受・割引・貸金及兩替、顧客の宿泊等を爲す居間（仲介業）典當舖（質屋）等があつて、賣買の仲介、金融等に便じて居る。この原始商業機構は偶々通りかゝつた旅人などに非常な興味を興へるのである。

又内地人を顧客とする商業は、内地都鄙と異なる所なく多くは内地人によつて行はれ、大デパートより一般小雜貨商に至る迄各地に散在し、主として大阪商人との間に於て取引盛んである。

貿易は内地朝鮮間に最も多く行はれ、輸移出貿易の九割五分、輸入貿易の八割までを占め、其餘が外國貿易である。昭和六年度に於ける輸移出總額は二億六千七百七十餘萬圓であつて、米・大豆・魚類を主なるものとし、輸入總額は、二億七千四百六十六萬餘圓であつて、綿織物業・肥料・機械類が主なるものである。

商工會議所は京城外主要都市十一ヶ所にあつて、斯業

方面の改善發達に努め、總督府商工獎勵館は京城に在つて鮮内物産の利用促進並に内地・外國商品の紹介等商工業の發展に資しつゝあり。取引所は京城・群山・木浦・釜山・鎮南浦にあり、その他重要物産同業組合・産業組合等が各地にあつて、夫々斯界の向上發展を促進して居る。

## 二

朝鮮の金融機關は夫々特色ある機構を爲して居る。京城には資金四千萬圓の中央銀行である朝鮮銀行があつて、銀行券の發行を爲し、國庫金の出納・國債事務の取扱ひをなし、鮮内樞要の地に支店・出張所を設け、又爲替の調節及貿易助長の爲、内地・滿洲・中華民國の樞要地及紐育等に支店又は出張所を設置して居る。

不動産金融機關として朝鮮殖産銀行及東洋殖産株式會社がある。又貯蓄銀行業務を營む朝鮮貯蓄銀行及商業金融機關としての普通銀行が、朝鮮に本店を有するもの十二、内地に本店を有するもの四あり、朝鮮銀行及朝鮮殖産銀行も亦普通銀行業務を兼營して居る。

さらに組合組織による庶民金融機關として最も特色あるものに、金融組合がある。これは朝鮮に於て特に著しく發達し、預金を受入れ積立金とともに貸金をなすのであつて、村落組合と都市組合に分れ、前者は農村の經濟緩和、産業の助長に、後者は都會地の小商工業者の利用に便ぜられつゝあり、



組合員は有限責任とし、一口十圓以上五十圓以下を負担せしめ、その持分に對し年七分以下の配當を受けて居る。

昭和六年度末現在によれば、村落組合は六百二、組合員六十九萬二千四百三十四人、都市組合六十一、組合員三萬三千八百八十八人を算し、預り金總計八千八百七十七萬五千圓、貸出金一億二千三百八十四萬三千圓に及び朝鮮金融組合聯合會のもとに各道に支部を設け整然たる統制が行はれ、逐年堅實なる發展の途上に置かれて居る。

無盡會社は昭和六年六月朝鮮無盡業令制定以來特に進展の勢を示し現在三十四社、給付金契約高七千七百餘萬圓を算し、半島庶民金融の爲に活躍して居る。

信託會社も、最近設立せられたる資本金一千萬圓の朝鮮信託會社を初め、昭和六年十二月一日施行の朝鮮信託

業令により、二十社中改めて認可を受けたる五社を合せ、合計六社が夫々活動し金融界に貢獻して居る。昭和八年三月末現在信託財産は計一千百二十九萬六千三百五十圓である。

朝鮮に於ける金融機關の最大特長は、今日まで取付・休業或は破産等を爲したるもの全く皆無なる點である。

世界を擧げて金融恐慌の渦中にある際かゝる現象は全く稀有のことに屬し、近來經濟界の主流たる統制經濟に對する好箇の研究命題をさへ與へて居る。



## 八、最近の主要都邑

(イ) 釜山より京城まで

### 釜 山

朝鮮半島の玄關であつて、歐亞聯絡の關門になつて居る。對馬を青一髪に眺め、下關とは百二十哩を隔て、三千噸級の巨船が朝夕二回往復し、國有鐵道亦その埠頭棧橋から起つて、海陸の百貨吞吐せられ、朝鮮第一の貿易港且慶尙南道廳の所在地である。人口十四萬八千二百人、内地人四萬七千八百餘人、朝鮮人十萬人、外國人四百人、龍頭山上の眺望・龍尾山上の加藤清正・武内宿禰を合祀する神社・釜山鎮城趾・松島海水浴場等見るべきところも多い。有名な東萊溫泉・海雲臺溫泉等はいづれも近郊三四里の間にあつて、自働車・電車の便がある。

此地を發して、三浪津に至る間は車窓直下に洛東江隱見し、四時の眺望飽かず宛然畫圖の裡を行くがごどき感がある。

貿易年額は一億九千七萬圓、物産は鮮魚・水産製品を主なるものとし、年産二千數百萬圓に上る。

[ 58 ]



釜 山 埠 頭 (濟南檢部令司塞要灣海嶺)

みやげものとしては、釜山海苔・蒲鉾・櫻干・海の錦鯛の花・小魚の酢漬等が名高い。

### 馬 山

梨で名高い三浪津の、峰にわたり谷に連つて一杯の梨畑を眺め乍ら、慶全南部線に乗り換へて四〇・一軒鎮海灣内の良港馬山がある。人口二萬七千四百人、内地人五千百餘人、朝鮮人二萬二千二百人、外國人五十人の市街である。

この地は山海の景に富み、竹・杉等の暖地植物よく成長し、空氣の清淨、氣候の溫和と相俟つて朝鮮第一の健康地と稱せられて居り、且又半島有數の水産地であつて四方の漁船輻輳し、水産市場で取扱ふ魚の數量毎年十三萬貫を突破する。

### 大 邱

[ 59 ]

慶尙北道廳の所在地であつて昔は達城と稱し京城・平壤・釜山等に亞げる朝鮮第四位の都會である。人口十萬三千五百餘人、内地人二萬六千六百人、朝鮮人七萬六千五百餘人、外國人四百餘人、林檎は名物中の名物、驛頭は年中林檎の山をなして居る。

此附近沃野遠く開け農業が盛んであつて、果物の外に穀類・棉花・煙草等の産出に富んで居る。

古來有名な大市場あり、朝鮮人商取引の狀態を知らんとするものは、一たびは必ずこの市場を訪ふべきである。又藥令と稱する秋二ヶ月に亙る藥市は鮮内有數の催しであつて、漢藥の取引を行ひ、その賣上高も多額に上るのである。

市街地には各種の文化設備も整ひ、市の内外には達城公園(大邱神社鎮座)・ゴルフリンク・配水池・水源池・刀水閣等の名勝古蹟や遊園地がある。



大邱市場

みやげ物として苹果・林檎羊羹・新羅煎餅・東洋苧・改良扇等がある。

## 慶州

新羅王都慶州のことはすでに巻頭に於て之を述べた。此地へ行くには大邱からさらに、鐵道及自動車のいずれかを選んで東方約十七里の道をゆくのである。



石窟庵の石佛

一千年前の文化の跡は、今尙城址・古墳・寺刹・金石佛・巨鐘の裡に存し、當時の榮華を想望せしむるものがある。町は人口一萬八千六百人、内地人一千餘人、朝鮮人一萬七千五百餘人、此地を距る四里に佛國寺があり、寺後の吐含山上に在る石窟庵の石佛は、新羅文

化の遺跡として朝鮮古美術の粹を極め、まさに世界一の稱がある。

## 烏致院

忠清南・北道の咽喉を扼する京釜線の要驛である。前面に廣闊なる平野を控え、烏川及美湖川を貫流し、地味肥沃な爲、附近の農産物輻輳し、市場亦殷盛を以て知らる。人口八千五百餘人、内地人一千三百餘人、朝鮮人七千餘人、外國人百人、物産の重なるものは米の移出十五萬石を首め棉花・蠶繭等がある。

西北に天安驛があつて、其附近に溫陽溫泉がある。近郊の牙山又日清戰役の火蓋を切つたところとして名高い。

## 公 州

もと忠清南道廳の所在地であり往時は百濟の都城であつたこともあつて、久しく本道文化の中心をなした所である。人口一萬九百人、内地人一千三百餘人、朝鮮人九千四百餘人、外國人百人、特産の春布及蟬羅は古來著名で杞柳製品各地に販出され、商取引亦殷盛である。烏致院驛を距る西方約六里半、自動車運輸の便がある。濟民川市街を貫流し、鳳山西に峙ち公州神社鎮座し、東に櫻山公園があり、北方の山城公園は錦江に臨みて老樹鬱蒼、眺望絶佳である。

## 清 州

忠清北道廳の所在地、烏致院驛より四里半、朝鮮鐵道線が開通して居る。

石橋及龍頭寺の鐵幢は古來より名高く、上黨山城址・明岩堤・清州神社・櫻馬場・東公園・西公園等杖を曳くに足る。

主要物産は米・大豆・小豆・大麥・小麥等の農産物であつて、清酒・朝鮮酒の特産がある。人口一萬六千三百人、内地人二千八百餘人、朝鮮人一萬三千三百人、外國人百餘人。

## 天 安

京城を南に距る九七・三軒、西は群山對岸長項里、東は長湖院まで開通せる京南鐵道の起點で、交通至便殷盛なる物資の集散地で市場取引は年々漸増の傾向にある。人口一萬三千三百人、内地人一千百餘人、朝鮮人一萬二千餘人、外國人百餘人、天安胡桃饅頭、成歡甜瓜は特産物として名高い。

## 水 原

明媚なる西湖の風景を以て世に知られた水原は水の都であり、樹の都である。東に光教、西に八達山の山々が穆々として立ち、山麓に蒼龍・華西・八達・長安の四つの樓門があつてこの小都を抱いて居る。往時正祖王の經營に成れる華寧殿・訪花隨柳亭等の名勝、今尙存し、農事試驗場・高等農林學校等ありて、朝鮮農業の模範地となつてゐる。人口一萬二千八百人、内地人一千六百人、朝鮮人一萬一





千百餘人、名物に酒・桃・梨・カステラ等がある。

## 仁 川

五十年前までは濟物浦といふ黄海岸の灣入地に於ける一小漁村に過ぎなかつた。大院君攝政時代耶蘇教の嚴禁から佛國と事を構ふに至つて、同國の軍艦三艘と七隻が前後二回開罪の爲此地の外港其他に來襲した。その後明治四年米艦五隻これ亦開罪の爲來航し、八年には我雲揚艦砲撃事件が勃發し、この時初めて鎖國主義の朝鮮が日韓修好條約に調印し、明治十五年に於ける花房公使の遭難事件や同十七年に於ける竹添公使の事變等で著名な所となつたが、明治十六年の一月には開港場となつた。

その以後の仁川は東洋の大事件には、いつも關係をもつ様になつて居つて、今は人口六萬八千二百人を算し、内地人一萬一千三百人、朝鮮人五萬五千四百人、外國人

一千五百餘人となつてゐるが、往昔の史的關係よりして支那人の住居せるものが頗る多い。

干満の差三十三尺の此の港に於て、干潮時と雖陸地より直接荷役の出来る設備としての仁川船渠は、東洋唯一の二重閘門式船渠であつて、十ヶ年の歳月を閲して大正七年竣功せるもので、繫船壁の高さ三十九尺、長さ二百五十間、幅百二十間、水面積三萬坪を有し、四千五百噸級の船舶五隻を同時に繋留することが出来る。

各國公園・江華島・月尾島等視るべきところも多いが、就中、月尾島の海景色と、その昔瀾鐵が作つた宏壯なる潮湯は、一度入湯すべき價值がある。輸移出入貨物百二十萬噸、貿易額一億一千萬圓を算する盛況にある。

## 京 城

萬のからんだ南大門の樓閣一つを仰ぎ見たゞけで、李朝五百年の王都であつたことをしみじみ感ずる都會であるが、此地は嘗て百濟の上代に於ける樞要な地點であり後には高句麗の北漢山郡や、新羅の北漢山州や、高麗時代の南京であつたこともあり、この物さびた古都の匂ひに、潑刺たる近代文化の清新味を織り交ぜた京城の町は、さすが半島の首都としてのどつしりとしたムードを持つて居る。北に北岳山(白岳山)、南に南山、東に驍駝山、西は仁王山に圍まれた盆地であつて、その地勢がやゝ



京都に似て居り、漢江の巨流は洋々として府の東南を繞り其の名所舊蹟等全く枚舉に遑あらず、まことに住心地のよい落ついた都城である。

道路は四通八達、電車・バス等の交通網もよく整備し日常生活についての文化的施設も亦よく整つて、全く内地の大都會を凌ぐの概がある。朝鮮總督府は白岳山麓の景福宮址にあつて、大正十四年の十二月に竣工し其の費六百餘萬圓を投じた程の立派な建築物であり、特に朝鮮市産の各種大理石を使用したりしてゐる點等廣く建築學上の参考になるが爲に日々參觀を願出る者が頗る多い。

街 市中に昌德宮・德壽宮・景福宮址・慶熙宮址・宗廟等をはじめ、李王職經營の昌慶苑(博物館及動植物園)・南山公園(朝鮮神宮・京城神社鎮座)・社稷壇・樊忠壇・孝昌園・白塔公園等の遊園地並に普信閣・水標橋・老人亭・天然亭・獨立門・崇禮門(南大門)・興仁門(東大門)・彰

義門(北門)・東廟・南廟等があり、郊外にはゴルフリンク並に石坡亭・洗劍亭・玉泉庵白佛・碧蹄館・牛耳洞・永徽園・綏慶園等の名所舊蹟がある。

みやげ物は、螺鈿漆器・パカチ盆・高麗燒・神仙爐・人蔘精等が有名である。人口三十七萬四千九百餘人、内地人十萬四千七百人、朝鮮人二十六萬六千人、外國人四千三百人。

## 春 川

江原道廳の所在地、京城を距る東北二十三里餘、定期自働車の便がある。京春街道に在る新延橋の完成により多年の懸案たりし京春間の交通は茲に一新紀元を劃したのである。

邑西約七丁の地に新羅時代の遺物である利竿及七重塔があり、附近に鳳儀山・昭陽亭等の勝がある。人口一萬一千九百人、内地人一千八百餘人、朝鮮人一萬餘人。

(ロ) 大田より木浦及麗水まで

## 大 田

湖南線の分岐點で、南鮮の殆んど中央に位し忠清南道廳の所在地である。京釜線中大邱に亞ぐ物資

の集散地で穀類・蠶繭・棉花・漢藥等の取引旺んであり、特に當地產の連成蔬菜は近年著しく名聲を高めて居る。

人口三萬三千八百餘人、内地人八千三百人、朝鮮人二萬五千五百人、外國人百餘人、西北二里の儒城溫泉、同五里の鷄龍山、北四里の錦江水泳場等へはいづれも自働車の便があり、又附近に寶文山・蘇堤山及龍頭閣の遊園地がある。

## 扶 餘

湖南線の論山驛から約四里半を距てた所に、百濟の舊都扶餘邑がある。此地は百濟の末期聖王の十六年から、義慈王の二十年に至る百二十三年間、新羅と唐との聯合軍によつて滅亡せしめられた時迄の都城であつて、其舊址は、扶蘇山の半月城址を中心とした其の四周に残存して居る。目下扶餘邑には、その古蹟保存會の人々連に依つて蒐められた百濟の遺物陳列館があり、且又春風秋雨一千二百七十餘年前の昔を語る、平百濟塔などが遺つてゐて、坐ろに當時の佛を眼前に彷彿たらしむるの想ひがする。殊に又此地には昔から扶餘八景等の勝地があつて、都城選定以來の山河自ら雄大、近時は在住有志等の活動と相俟つて、日夕訪客の踵を絶たない程である。

## 全 州

全羅北道廳の所在であつて、嘗ては後百濟の都城完山であり、又現李王家御祖先の發祥地であつて古來湖南第一の雄邑であつた。而して其の位置裡より分岐した慶全北部線南原に通ずる沿線に位し半島第一の全州平野を控え、水田遠く開け所謂群山米の大部分は此地方より産出せられるのである。随つて内地人農業經營者の如きも二百二十戸の多きに達し、蠶業竝に呎・紙扇子・團扇・雨傘の製造も盛んであり、古來著名の鳳東面生薑は年額一萬四千石を産し、又品質優良な高山柿は産額二十八萬六千貫に上る。

## 群 山

人口三萬八千六百餘人、内地人五千五百餘人、朝鮮人三萬二千八百餘人、外國人三百餘人、邑後の完山城址を首め邑内の慶基殿・肇慶廟・城東の梧木臺・寒碧樓・城西の多佳山・全州吉野山等の舊跡名勝に富み、附近に徳津公園や古刹威鳳寺や鳳棲寺等がある。

朝鮮主要の開港場で、木浦と相對する姉妹港である。上海・大連・青島・内地各港との間に定期航路あり、物資の集散殷盛を極め、米の輸移出量年額百五十萬石乃至二百萬石に及ぶ。又忠清南北・全





群山に於ける米の輸移状況

羅北三道の平野を流れる錦江の河口に臨み、國有鐵道湖南線及京南鐵道に依り海陸連絡し尙奥地方面へは自働車の便がある。

群山公園は眺望に富み、唯一の遊覽場である。尙附近に不二興業會社經營の干拓事業がある。人口三萬五千六百、内地人九千人、朝鮮人二萬六千二百人、外國人四百人、特産品に清酒・醬油があり、又味魚・鯛の尾・シヨット・海老等は土産品として優秀である。

## 光 州

湖南線松汀里驛を東に距る三里、同驛より分岐する全南線一五杆の地にある。全南平野を縦斷して内地連絡の日發航路麗水港に至る南朝鮮鐵道會社線の起點である。全羅南道廳の所在地であつて、嘗ては後百濟の舊都武珍州であつた。人口三萬三千五百人、内地人六千五百餘

人、朝鮮人二萬六千八百餘人、外國人百餘人、無等山市街の東方に聳え、名所として龜ヶ岡公園・石犀亭、舊蹟として聖龜塔・大皇寺等がある。

郊外の畑地には棉花を多く産し、みやげ品として無等山特産の西瓜がある。

## 木 浦

湖南線の終點であり、群山港と共に南鮮海運の樞要を占むる主要貿易港である。背後に全南の沃野を控え、前面に所謂朝鮮多島海を擁し、内地諸港は勿論、大連・上海及沿海各地との間に定期航路があり、米穀・棉花・海産物其他の輸移出入が盛んである。此近郊は南鮮に於ける棉花の主要産地として名高い。松島公園・外達島及大盤洞の海水浴場・公設グラウンド等の遊樂設備があり、又木浦臺・鎭達山・高下島(陸地棉試作地)等名所舊蹟が多い。人口五萬二千五百餘人、内地人八千五百人、朝鮮人四萬三千八百餘人、外國人二百餘人、みやげ品としては海苔・海老デンプ・フライ油・海産物の罐詰等を誇りとする。

## 麗 水

陸路は順天を経て全北に通ずる二等道路に依り、毎日三回以上往復する自働車の便があり、突山に

通する三等道路もある。曩に光州へ通する南朝鮮鐵道の竣工に依り、劃期的に交通の便開け、海路としては朝鮮汽船會社其の他の釜山・濟州島間月二十五回、同じく朝鮮汽船會社の釜山・木浦間月二十五回、麗水・釜山間日發、大阪商船會社の大阪・麗水間月十回、興洋水產會社の麗水・濟州島間月八回等頻繁なる航海の便あり、殊に鐵道の開通に伴ひ、下關・麗水間連絡船毎日一回航海し、その他郡内島嶼及沿海各地間の發動機船の往復等實に頻繁となつて來た。

これら交通機關の整備と、漁業の發達とにより、貿易漸次隆盛に趨き、昭和五年中の輸出額は四百九十餘萬圓、輸入額一千七百十餘萬圓である。工業の主なるものに、精米・鐵工・造船・蒲鉾その他があり、家庭工業として、綿布・麻布・繩・吹等が行はれてゐる。

人口二萬四千六百餘人、内地人二千九百餘人、朝鮮人二萬一千六百餘人、外國人四十人、新興の氣運全市街に漲り、市街地整理計畫を立てその工事竣成も近きにある。

風光の明媚と、溫暖なる氣候と相俟つて、全南第一の遊樂地であり、鐘鼓山・海雲臺・猿村城址・李舜臣碑閣等の古蹟や石泉寺・寒山寺・興國寺等の古刹があるが、外海には巨文島や將軍島等の著名な島嶼もある。

又棉花の產額は全鮮有數で、石首魚・鰻・鯛その他多數の水產物があり、みやげ物として海苔・櫻干等が珍重される。



(ハ) 京城より新義州まで

## 開 城

新羅の舊都慶州や、樂浪の首邑であり高句麗の古都であつた平壤と相並んだ高麗の舊都開城は、由緒正しい半島藝術の粹を知る爲に、ぜひとも杖を曳かねばならぬところである。殊にある意味に於て朝鮮を代表する藥用人蔘は、この地を中心として、白菜とともにさかんに栽培せられ、年産額人蔘は三百萬圓、白菜は二十萬圓と計上せられる。その他朝鮮燒酎も亦特産の一で、年産額三十萬圓を算し又白蔘・人蔘蜂蜜漬、又は人蔘を加味せる菓子、人蔘エキス・人蔘粉末等がみやげ物として珍重せられる。

春は鐵道公園の櫻と桃の花盛り、秋は彩霞洞の紅葉狩などともに有名であるが、紫霞洞・扶山洞等も遊覽地と

して頗るよく、又満月臺址・瞻星臺址・善竹橋・崧陽書院・成均館・太平館址・壽昌宮址・敬德宮址・南大門・關王廟・觀德亭・穆清殿等の名勝や、其の近郊に散在する華藏寺・大興城址・朴淵瀑布等の名勝古蹟に富んで居る。尙其の附近には顯陵・恭愍王陵等高麗朝時代の王陵が多數にある。人口五萬八百人、内地人一千六百人、朝鮮人四萬九千百人外國人二百人。

### 沙里院

朝鐵黃海線の起點で、廣袤五萬町歩の戟寧平野を控え、農産物の集散地である。従つて市場の殷盛は全鮮屈指のものである。

附近には信川溫泉・三泉溫泉及黃海金剛の名ある長壽山・九月山・芳華山等の勝地があり、林檎・甜菜・唐麴・石炭はこの地の特産である。人口二萬五千餘人、内地人一千九百人、朝鮮人二萬二千八百餘人、外國人三百餘人。

### 海州

黃海道廳の所在地、京義線沙里院を距る西南七一軒又開城より自動車の便あり、尙朝鐵黃海線龍塘浦延安間五二・五軒も開通した。



平壤丹臺公園

人口二萬三千七百人、内地人二千八百餘人、朝鮮人二萬七百人、外國人二百人、芙蓉堂・百世清風碑・梵字石塔・濯熱亭等の古蹟があり、遊覽地には龍塘浦・廣石川郷校園等がある。

米・麥・粟が主要産物で、海州筆墨硯・朝鮮藥酒・水産加工物等が特産品である。京義本線土城驛より海州に至る間に（土城を距る十二軒）千羽の鶴で有名な白川溫泉がある。

### 平壤

京城以北に於ける大都會であつて、其殷盛又京城に亞ぐ。平南線・炭礦線及平元線の分岐點であり水量の多い大同江に依り交通至便且石炭・鐵及諸礦物の賦存が豊富な關係上、工業都市として、朝鮮第一の素質を備へて居るのみならず、古朝鮮をはじめ樂浪時代や高句麗時代の



名所舊蹟に富み、明媚なる風光と相俟つて遊覽都市としても有名である。人口十四萬五千五百人、内地人一萬九千五百人、朝鮮人十二萬四千六百人、外國人一千四百人。

平安南道廳を首め旅團司令部・飛行聯隊・その他官公署學校・諸工業會社・海軍燃料廠鑛業部等あり、アメリカ人經營の澱粉・製飴製造のコーンブロッグダット會社の工場もある。

遊覽地としては平壤博物館・牡丹臺公園・瑞氣山公園・三角地公園、舊蹟には崇仁殿・崇靈殿・練光亭・浮碧樓・永明寺・箕子陵・關帝廟・大成殿等があり、郊外には樂浪郡治址・樂浪時代の古墳・高句麗の遺跡としての酒岩・安鶴宮・大城山城址等がある。又戰蹟としては萬壽臺・牡丹臺・乙密臺・玄武門・普通門・大同門・船橋里等があつて枚舉に遑がない。

特産として洋襪・清酒・牛肉・樂浪焔爐・ゴム製品を推し、みやげ物では栗・林檎・樂浪落雁・牛肉平壤煮等が代表的である。

## 鎮南浦

京義線より分岐して西走する平南線五五・二軒の終點、大同江口席島を遡ること二十哩の右岸に位する貿易港で、背後に大同平原、江西・載寧等諸平野の農産地を控え、大連・芝罘・青島・臺灣・樺太・阪神・關門・鮮内各港との航路がある。人口四萬六百人、内地人五千三百人、朝鮮人三萬四千九

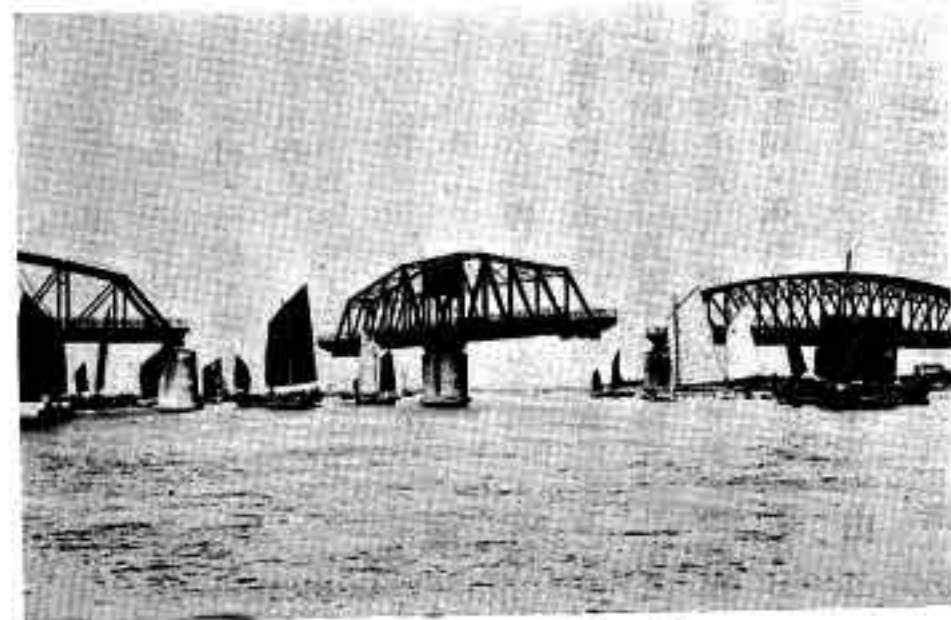
百餘人、外國人四百人。

特産には林檎・三和高麗燒・三和編・干蝦・麥粉等があり、五里を隔て、廣梁灣鹽田があつて面積一千百餘町歩、一ヶ年一億三千萬斤の天日製鹽を産し、鮮内鹽田中最も大規模である。

遊覽地としては昭和公園及三和花園があり、尙其の附近の四周には短時間に自動車で往復し得られる龍岡溫泉・寶林寺・眞池洞古墳・梅山里古墳・粘蟬碑・玉泉山のドルメン・烏石山城址等がある。

## 新義州

京義線の終點、平安北道廳の所在地であつて、鴨綠江を隔て、滿洲國安東縣と相對して居る。鐵道は江上三千九十八呎の鐵橋に依り、安奉線に聯絡し歐亞交通の要衝に當り、橋下の鴨綠江は舟楫の便を有すること百二十



餘渾、此流域には廣漠たる沃野を控え上流地方には蓄積無盡蔵と稱せらるゝ大森林を擁するので、製材・製紙等の事業が甚だ盛んである。

人口四萬八千七百人、内地人七千七百人、朝鮮人三萬五千五百餘人、外國人五千四百餘人、特産品として木材・洋紙・燐寸軸木・バルブ・豆粕・豆油・白紋油・洋機等があり、みやげものとして白魚の譽干がある。

(ニ) 京城より上三峰・雄基及羅津まで

## 鐵 原

京元線京城驛より北方一〇一・三杆、内金剛に至るには、此處で乗換へて金剛山電氣鐵道で、長安寺に至るのである。邑内は驛の東方二十町のところにあつて、人口一萬六千四百餘人、内地人一千二百人、朝鮮人一萬五千二百餘人、外國人五十餘人、附近一帯の平原からは、米・大豆・畜牛・月井里産林檎等を産し、附近の月井里には新羅末の摩震國王弓裔の城址や古塔や到彼岸寺の鐵佛・古塔をはじめ褒忠祠・孤石亭等の舊蹟と名勝地がある。

## 元 山

日本海に面する北鮮第一の貿易港である。

日本海及露領方面より來りたる貨物は概ねこの地に轉合し、京元線によつて京城方面に輸送せられ殊に最近奥地に於ける水力電氣・窒素肥料・セメント・無煙炭等の事業の勃興に伴ひ物資の集散極めて殷盛で、昭和五年度輸移出入總額二千三百三十二萬餘圓を算してゐる。

地は永興灣の一角を占め、松田灣と相對し南より出た葛麻半島と北から突出した虎島岬と灣口の島嶼とが自然の防波堤を造り、築港施設の完備と相俟つて、まことに屈指の良港である。

加ふるに松濤園及同海水浴場並に白沙十里で名高い葛麻半島は夏季の樂土として知られ、明媚な風光は朝鮮を訪れる旅客の心を強く惹きつけるのである。

人口四萬二千百餘人、内地人九千百餘人、朝鮮人三萬二千四百人、外國人六百餘人、府内は元山府廳・永興灣要塞司令部その他官衙學校等軒を並べ、文化設備完備し、ゴルフリンク・公設運動場及近郊新豊里にはスキー場がある。

## 咸 興

咸鏡南道廳の所在地であつて、北に盤龍山を負ひ、城川江に臨み、西南に平野を控え、形勝の位置を占め、朝鐵咸興線の起點で奥地新興郡及長津郡に通する要衝に當り、交通至便従つて物資の集散殷盛である。最近水力電氣・窒素肥料並に製絲等の工業勃興に伴ひ、一層隆盛の氣運に向つて來た。

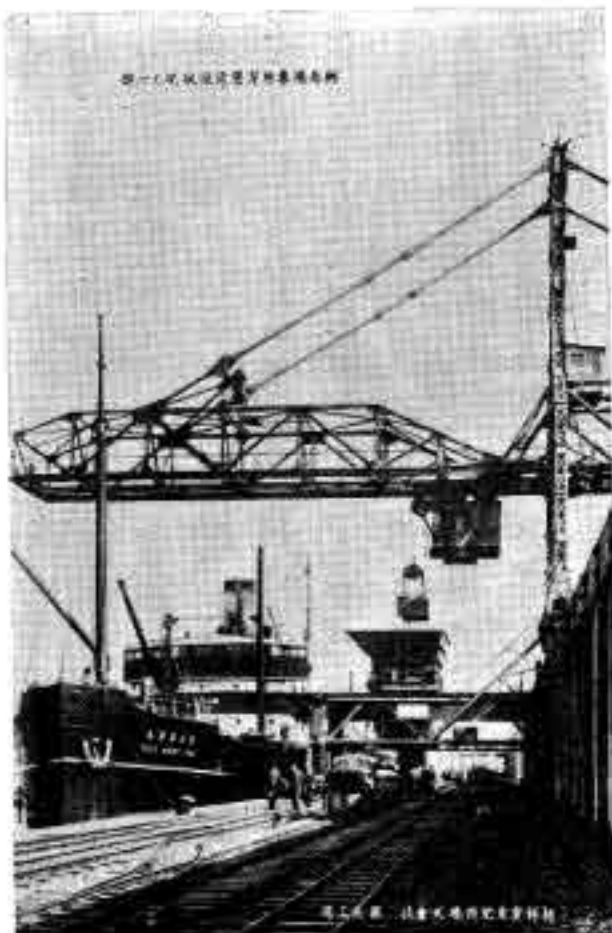
商圏内の生産物は、農産に於て米・大豆・粟・各種蔬菜・蠶繭等、工産に於て酒類・窯素製品・金屬製品・動物性脂油・布帛製品等、畜産に於て牛・馬・豚・鶏、林産に於て薪炭材・木炭・柴葉・用材等、水産に於て明太魚・鰈・鱈・鮑・蟹等があり、特産品としては石炭・生絲・林檎・梨・松葉藥ツルチユク等があり、みやげ物として明太卵・林檎・玉石製の硯・食盆・漆器等がある。

人口四萬三百人、内地人六千六百餘人、朝鮮人三萬三千四百餘人、外國人二百餘人、名勝として咸興城址・盤龍山等があり、東北一里の郊外に李朝太祖の舊蹟慶興殿があり又其の近郊には定和陵・歸州寺等の名勝舊蹟がある。

## 興 南

昭和三年前までは裏朝鮮不毛の一寒村に過ぎなかつたのであるが、西湖津附近に於て朝鮮窯素肥料株式會社が大工場を建設して以來、一躍世界的に有名になり、人口二萬五千五百人の文化都市を形成するに至つた。此會社の主要製品は、硫安及硫磷安五十萬噸であつて、其従業員五千人を算し、一平方哩の敷地に各工場整然と軒を並べ、社員以下従業員の社宅は山手の松林中並に九龍里及雲龍里白砂青松の間に、調和よき赤煉瓦を隠見させ、あらゆる文化設備を完備して居る。尙同會社専用の興南港は、三萬噸級の遠洋汽船一隻、三千噸級のもの二隻、一千五百噸級のもの一隻を横付けせしめる設備を

有し一ケ年の吞吐貨物百五十萬噸に達する。



朝鮮窯素肥料會社専用棧橋

## 城 津

元山港の北方百二十四哩餘に位する日本東海岸の一開港場であり京城へは鐵路十八時間、海陸の交通運輸極めて至便で、咸鏡南北兩道の物貨集散地である。

大豆・粟・米・馬鈴薯・林檎・梨・蠶繭・生牛・牛皮・木炭等の農産物、鮭・鱈・明太魚・鰈・鰺

和布等の水産物、生絲・麻布・陶器類・大理石等の工産物が豊富である。

みやげ物として、大理石細工品・石鍋・雲丹・燻製魚類等がある。人口一萬二千人、内地人一千六百人、朝鮮人一萬三百人、外國人百餘人、雙浦の奇岩・摩天嶺等の名勝があり、又松興・細川兩溫泉等も名高く、東方沖合の耶島の蜃氣樓も著名である。



城津を出て北進すること二十二・二軒に吉州といふ驛があるが、之れから分れて西北惠山鎮に達する北鮮開拓の惠山線が建設に着手せられてゐる。此の惠山線の略中央に當る合水から、北上して茂山に達する北鮮拓殖東部線、惠山鎮より鴨綠江に沿ふて西走し、満浦鎮に達する北鮮開拓中部線、満浦鎮より更に鴨綠江岸を西に進んで多爾島に至る同西部線等を必要とし、此等鐵道完成の曉には、満浦鎮・平壤間の鐵道の竣功と相俟つて、北部朝鮮を東西に連絡し、南北に相通じて其の無限の資源を開發するに資する所甚大なものがあるであらう。

## 羅 南

咸鏡北道廳の所在地であつて、十九師團司令部がある。昔は咸北邊隅の一寒村であつたが今では人口一萬五千四百人、内地人六千百人、朝鮮人九千百人、外國人三百人、遊覽地として中央公園・天明山・三笠山等があり、特産品としては苗木・果實・清涼飲料水等があり、みやげ物として羅南豆・ツ



ルチユク等がある。

## 清 津

浦鹽・敦賀を控えて日本海岸の一大貿易港である。裏日本諸港・關門・阪神・東京方面への定期航路あり、その他沿岸各港への航路開け船舶の出入頻繁であり、又陸上は會寧を経て天圖鐵道と連絡し間島を経て新京に達する等北鮮と滿洲・内地方面との連絡至便の港灣である。

産業の重なるものは商業及海産業で、貿易年額五千萬圓を算し、輸移出品の主なるものは大豆の二百五十三萬餘圓木材の二十二萬餘圓、海産製品の百六十二萬圓、輸移入品は小麥粉四十四萬餘圓、魚網三十九萬餘圓綿織物百九十五萬餘圓、粟八十三萬餘圓である。人口三萬五千百餘人、内地人八千三百餘人、朝鮮人二萬六千餘人外國人八百人、遊覽地として鰐島ヶ丘・高稜山の兩公園・天馬山（大公園豫定地）・夫婦岩・仁智島等がある。みやげ物としては水産

物加工品の特産物をはじめ、硯・水晶製品・鹽雲丹・干雲丹・ツルチュク等がある。

## 會 寧

國境の町—と呼びなれてゐた會寧も、國鐵の終點が上三峰に移つてからは、やゝその感はうすれたが、依然として北鮮の商工及交通上の中心都邑であつて、天圖鐵道に依り間島に通じ、又慶源（琿春方面に連絡）間には定期自動車の便があり、道路も國境各郡とよく連絡して居る。尙豆滿江の舟筏により製材盛に行はれ、附近一帯に無盡藏なる良質の石炭を産し、將來商工都市として一層發達する素因を有して居る。

人口一萬八千五百人、内地人二千百人、朝鮮人一萬六千餘人、外國人三百五十人、みやげ物としては會寧燒があり、又古蹟としては顯忠祠・會寧城址・吾晉會城址・雲頭城址・雲淵の古碑等がある。

## 上 三 峰

上三峰は其の位置南陽と共に京義線の新義州に比ぶべき、北滿交通の要衝である。昭和二年九月に國際鐵橋が架設されて、對岸滿洲國の江岸站と結びつき、さらに昭和七年十一月國鐵が會寧より延長

されてこの驛が終點となつて以來、山間の小驛は日に月に長足の進歩を遂げて今では人口三千の町形をなし、尙漸次増加して、發展の域に進みつゝある。

大豆の出盛り期には當驛を通過する數量十萬噸を超過する由であるが、我國の最前衛の役割を遂げつゝあるこの町の將來は、產業的にも、文化的にも興味深く刮目して待つべきものと思はれる。尙又此附近には有名な石器時代の遺跡があつて、専門家達の手によつて蒐集されてゐる遺物などが頗る多い。

## 雄 基

清津を距る北東四十七哩、豆滿江岸を走る圖們線は昭和八年八月南陽潼關間十八・七杆を最後として全通し、途中南陽より滿洲新京に達する京圖線に連絡してゐる。

港は東・北・西の三方を、雄基嶺及松嶺山脈に圍まれ、南方は日本海に面し、灣内及臨港地區共に廣大なる面積を有し、慶源・鍾城・穩城等近接諸郡は勿論、間島・沿海州方面の物資・木材・大豆・小豆等の集散地であり、羅津その他へ乗合自動車の便がある。

物産としては、鰵油・メ粕・鹽鮭・開蟹・和布等の海産物を主とし、黃金浦の牡蠣・蟹等も名高



雄

羅 津

人口二萬四千人、内地人三千百人、朝鮮人二萬三百餘人、外國人六百人、みやげ物として蟹の罐詰・乾雲丹等がある。附近には卵島・赤島・赤池等の名所舊蹟があり、昭和四年總督府博物館の人々の手に依つて發掘された著名な雄基の貝塚などもある。

基

昭和七年八月敦圖北廻線の終端港として此地が決定發表されるや、北鮮僻地の一寒村は一躍世界的に有名になつて來た。巨費七千五百萬圓を投じて築きあげられるこの大港灣は、その竣工の暁には重大なる經濟的・文化的使命を持ち、東亞全局の經濟網にも著しい變化を來たすことであらう。

港

今は草礫不毛の地が多く、人口も極めて稀薄であるが、新興建設の氣充滿して、日々人口増加し、家屋の新築さるゝものも夥しい數に上りつゝある。海中には大草・小草の二つの島が、極めて自然に灣口を扼して風浪を防いで居り、港の背後には躑躅ヶ岡・高林山・天馬山がなだらかな起伏をみせて眺望絶佳である。

内地の敦賀港までは四百八十八哩で、日滿を繋ぐ最捷徑であつて、北滿一帯の物資と、北鮮開拓の進行に伴ふ諸産業の勃興による物資の集散港として浦鹽・清津・元山に並んで日本海の巨港たるべく豫期せられて居る。

雄基清津間の乗合自動車は毎日二回羅津を通過し、清津雄基間の各汽船も一日二回寄港する。雄基よりは約三里、清津よりは三十餘里の地點であるが、京城方面からの旅程を採る場合は、清津からの行程を選んだ方が時間的にも旅費の點に於ても經濟である。

## 金 剛 山

金剛山は江原道の東北隅海岸近く淮陽・通川・高城・麟蹄の四郡に跨る山城七里平方、周圍二十餘里に亙る廣袤たる一大仙境であつて、何が金剛山の名を世界に遍くせしめたかと云ふに、それは他の何れの風景を以てするも到底之に較ぶべきでないからである。そして其の然る所以は春夏秋冬其の景趣を異にし、一萬二千峯と稱せらるゝ峯々を構成する岩石が黒雲母花崗岩であり、風化作用を受け變幻の妙を極め、其の特徵たる光澤強き紫紺色と共に雄



港 津 羅



大豪壯なる山岳美を形成したるに在つて、一面又それが碎破崩落の際に於て直立せる一枚岩となり、或は斜面に平面に、大小種々の形態を型作り、そして花崗岩を洗ふ清澄透澈の水が急湍となつて其の間を走り、瀑となり、潭となり、淵となり、潮となつて、遺憾なく溪谿の美を發揮せるに在る。之に加ふるに豊富なる森林植物の配せらるゝ、又は碧棟朱楹の寺刹が絶壁の下、幽谷の裡に點在し、風趣を添ふるに至つて、其の妙、實に筆舌の盡し得る所にあらざるが故にして、只之を天下の絶勝、神秘の境と贊ふるを以て、僅かに其の一斑を表現すと云ふより他に途がない。外國の著名探勝家は其の偉觀に接して諾威のフィヨルト以上と云ひ、其の溪谷美を贊へて亞米利加のヨセミデの遠く及ぶ所に非ずと激賞し、そして菊地幽芳は「内地で金剛山に一番近い小さな模型を求むれば、それはまづ耶馬溪を擧げる外はない。けれど百の耶馬溪を以てするもなほ金剛山の雄大・怪奇を説明する事は出来ぬ。それほどに金剛山の溪谷は豪壯であり、複雑であり崇高であり、神秘である。これを世界的名山とするに何人も異存があらうとは思はれぬ。」と、又吉田初三郎は之を描きて「百の妙義、千の耶馬溪を打つて一丸となすとも、やわか此の金剛の絶勝にまさるべしやは」と。それ山紫水明とか、風光明媚とか、壯觀・愉絶・清絶・雄壯・豪大・俊秀・美・麗・艶・幽・雅・怪・奇等々凡ゆる字句を求め連ねても、其の全貌を端的に表現し能はざるのが即ち金剛山である。

## 九、鮮内視察日程に就いて

一般的の視察でなるべく少い日數と經費とを以て鮮内を視察せらるゝには、大體以下掲げる様な日程に依らるゝを便とする。

### 鮮内視察日程 (時間表「八年八月の分による」別頁に在り)

湖南線方面	其の一	京城を朝立つて群山・全州等、米の産地及移出港を視察して釜山に至る	三日行程
	其の二	京城を晩立つて木浦・群山等、米・棉の産地、移出港を視察して釜山に至る	四日行程
西鮮方面	其の一	京城を朝立つて平壤・鎮南浦・五龍背温泉・安東を経て釜山に至る	四日行程
	其の二	京城を晩立つて平壤・新義州・安東を経て釜山に至る	四日行程
北鮮地方	其の一	京城を朝立つて咸興・羅南・羅津・雄基・琿春・龍井村(間島)・朱乙温泉を経て京城に歸る	九日行程
	其の二	京城を朝立つて咸興・羅南・清津・龍井村(間島)・雄基・羅津を経て京城に歸る	九日行程
	其の三	京城を晩立つて元山・咸興・龍井村(間島)・雄基・羅津・清津を経て京城に歸る	六日行程
金剛山	其の一	京城を朝立つて内金剛より外金剛を経て京城に歸る	五日行程



湖南線地方視察日程 (其の二)

日次	出	發	地	到	著	地	宿泊地	備	考
第一日	京	城後	10、35	二、三等	大	田前	4、35	車中	木浦行 乗替を要せず
第二日	大	田前	4、35	同	木	浦前	3、35	木	木浦港視察
第三日	木	浦前	9、00	二、三等	裡	里後	1、35	群	群山線に乗替
第四日	裡	里後	1、35	同	群	山後	3、40	山	不二千拓地及群山港視察
第一日	京	城後	10、35	二、三等	大	田前	4、35	車中	京釜線に乗替 約一時間半の待合せを利用し釜山市 内を視察するも可
第二日	大	田前	4、35	同	木	浦前	3、35	木	木浦港視察
第三日	木	浦前	9、00	二、三等	裡	里後	1、35	群	群山線に乗替
第四日	裡	里後	1、35	同	群	山後	3、40	山	不二千拓地及群山港視察

附記 裡里附近の農場を視察せんとせば、第三日裡里著午後一時三十二分にて裡里に下車、午後四時二十分同地發群山行に乗り、群山に午後五時五分著となる。

西鮮地方視察日程 (其の一)

日次	出	發	地	到	著	地	宿泊地	備	考
第一日	京	城前	7、30	急、各、食、等	平	壤後	0、35	平	平壤市内視察
第二日	平	壤前	7、30	三、等	鎮	南浦前	9、00	鎮	鎮南浦港視察
第三日	鎮	南浦後	1、35	二、三等	平	壤後	2、40	五	五龍背
第四日	平	壤後	2、40	各、食、等	五	龍背後	9、40	溫	溫泉
第一日	京	城前	7、30	急、各、食、等	平	壤後	0、35	平	平壤市内視察
第二日	平	壤前	7、30	三、等	鎮	南浦前	9、00	鎮	鎮南浦港視察
第三日	鎮	南浦後	1、35	二、三等	平	壤後	2、40	五	五龍背
第四日	平	壤後	2、40	各、食、等	五	龍背後	9、40	溫	溫泉

附記

一、江西古墳(江西邑より約二軒)の壁畫を視察せんとするときは第二日鎮南浦行の往路、岐陽驛に下車し午前十時十九分同驛發鎮南浦行列車に乗車すること。岐陽驛江西古墳間約十軒自動車賃切一臺十圓、岐陽驛江西邑間乗合自動車あり一人片道三〇錢。  
二、第一日京城發午前七時が早過ぎる場合は午前八時四十分發もある、之れによれば平壤著午後二時五十分となる。



西鮮地方視察日程 (其の二)

日次	出 發 地		到 著 地		宿泊地	備 考
	地名	時刻	地名	時刻		
第一日	京 城	後 10:15	平 壤	前 6:30	車 中	平壤市内視察
第二日	平 壤	後 2:58	新義州	後 8:46	車 中	新義州泊となし翌日 新義州市内及安東市内視察 安東より乗車釜山へ直行 約一時間半の待合時間を利用し市内 視察するも可 釜山視察を要せざるときは京城にて 下京視察を要せざるときは京城にて 同夜の連絡船は同じである
第三日	安 東	後 11:00	新義州	後 8:46	車 中	新義州泊となし翌日 新義州市内及安東市内視察 安東より乗車釜山へ直行 約一時間半の待合時間を利用し市内 視察するも可 釜山視察を要せざるときは京城にて 下京視察を要せざるときは京城にて 同夜の連絡船は同じである
第四日	釜 山	後 10:00	釜 山	後 8:46	船 中	釜山視察を要せざるときは京城にて 下京視察を要せざるときは京城にて 同夜の連絡船は同じである

北鮮地方視察日程 (其の二)

日次	出 發 地		到 著 地		宿泊地	備 考
	地名	時刻	地名	時刻		
第一日	京 城	前 8:45	咸 興	後 6:30	咸 興	

日次	出 發 地		到 著 地		宿泊地	備 考
	地名	時刻	地名	時刻		
第二日	咸 興	前 8:45	清 津	後 2:40	清 津	咸興市内及鹽素肥料會社等視察 其の夜半午前〇、四〇分出發 羅南市内視察後、清津に向ふ
第三日	羅 南	後 1:40	清 津	後 2:40	清 津	清津港視察
第四日	清 津	前 8:00	羅 南	後 2:40	羅 南	羅津港視察後、雄基に向ふ
第五日	雄 基	前 6:00	慶 源	前 6:30	慶 源	著後直ちに雄基港視察 驛邑内間乗合自動車一人片道二十錢 羅南市内視察
第六日	慶 源	前 10:00	雄 基	後 2:40	雄 基	羅南市内視察
第七日	雄 基	後 2:40	羅 南	後 2:40	羅 南	羅津港視察
第八日	羅 南	後 2:40	清 津	後 2:40	清 津	清津港視察
第九日	清 津	前 8:00	咸 興	後 6:30	咸 興	咸興市内及鹽素肥料會社等視察 其の夜半午前〇、四〇分出發 羅南市内視察後、清津に向ふ

北鮮地方視察日程  
(其の二)

日 次		出 發 地	到 著 地	宿 泊 地	備 考
第一日	京 城 前 八、四 <sup>十分</sup> 汽車 二、三等	地名	地名	威 興	威興市内及窒素肥料會社等觀察其の 夜半午前〇、四〇分出發 羅南市内觀察後清津に向ふ 清津市内築港等觀察 乗 換
第二日	成 興 前 〇、四〇 汽車 一、三等 急、緩、食	時刻	時刻	車 中	
第三日	羅 南 後 一、四 汽車 三等	乗 物	時刻	清 津	
第四日	清 津 前 八、三 汽車 一、三等	地名	時刻		
	輪 城 前 八、五 同	地名	時刻		
	上 三 峯 後 〇、三 汽車	地名	時刻	龍 井 村	
第五日	龍 井 村 前 五、〇	地名	時刻		滿洲時刻（一時間遅れ）龍井市内觀察 十月一日から本案の様なことも試み られる局子街觀察 滿洲時刻（一時間遅れ）
第六日	延 吉 後 〇、四〇 汽車	地名	時刻		

北鮮地方視察日程  
(其の三)

第九日	第八日	第七日	圖	南	雄	羅	清	輸	朱
	朱	雄	們後 三、〇〇	陽後 五、五〇	基前 一〇、〇〇	津後 一、五〇	津後 八、二五	城後 八、四〇	乙前 一〇、二五
			汽車	同二、三等	定期乗合自動車	同	汽車 二、三等	同	同
京	朱	羅	南	雄	羅	清	輸	朱	京
城前 六、二五	乙後 六、二五	津前 一〇、四〇	陽後 三、一〇	基後 二、一五	津前 一〇、四〇	津後 五、三〇	城後 八、二五	乙後 六、二五	城前 六、二五
	朱乙溫泉			基					
	朱乙峠、朱乙溫泉間自動車三十分	出發前早朝、雄基港視察 羅津港視察後清津に向ふ							

第一日	日次	
	地名	出發地
京城後二、四〇 <small>時分</small>	時刻	地
汽車二、三等 餐、食	乗物	
	地名	到着地
	時刻	
車中	宿泊地	
	備考	

日次	出發地		到著地		宿泊地	備考
	地名	時刻	地名	時刻		
第二日	元山前	八、五五分	元山前	六、五五分	中	元山市内視察 元山視察を要せざれば咸興に直行午前九、三〇分著となる
第三日	咸興前	四、四〇	上三峰前	二、四六	龍井村	咸興市内及空素肥料會社等視察後夜半午前〇、四〇分上三峰行急行に乗る
第四日	上三峰後	三、三〇	龍井村後	三、四〇	龍井村	滿洲時刻(一時間遅れ)
第五日	雄基前	一〇、〇〇	雄基後	五、三二	雄基港	滿洲時刻(一時間遅れ) 出發前、雄基港視察
第六日	清津後	八、五五分	清津後	五、三二	車中	著後直ちに清津港視察朱乙に向ふ

金剛山探勝日程 (其の一)

日次	出發地		到著地		宿泊地	備考
	地名	時刻	地名	時刻		
第一日	京城前	八、四五分	鐵原前	二、三二	長安寺	直ちに明鏡臺探勝
第二日	長安寺前	八、三〇	長安寺後	四、三二	長安寺	萬瀑洞、摩訶衍探勝
第三日	長安寺前	七、五〇	木輝里前	八、一〇	木輝里	
第四日	木輝里前	八、三〇	溫井嶺前	九、三二	溫井里	途中萬物相、寒霞溪探勝
第五日	溫井嶺前	八、四〇	溫井里後	四、〇〇	溫井里	九龍潭探勝
第六日	溫井里後	八、〇八	安邊後	二、〇〇	車中	乗替



金剛山探勝日程 (其の二)

日次	出 發 地		到 著 地		宿 泊 地	備 考
	地名	時刻	地名	時刻		
第一日	京 城 前	八、四〇 <small>時分</small>	鐵 原 前	二、三〇 <small>時分</small>	長 安 寺	乗替 直ちに明鏡臺探勝
第二日	長 安 寺 前	八、三〇	頂 上 後	三、〇〇	久米山莊	途中萬瀑洞探勝
第三日	毘盧峯 前	八、三〇	舊萬物相 後	三、三〇		途中九龍淵探勝
第四日	安 邊 後	一、二〇	京 城 前	六、三〇	車 中	六花岩まで自動車 舊萬物相探勝 六花岩より自動車 乗替

金剛山探勝日程 (其の三)

土曜京城發の場合

日次	出 發 地		到 著 地		宿 泊 地	備 考
	地名	時刻	地名	時刻		
第一日 (土曜)	京 城 後	二、四〇 <small>時分</small>	長 安 寺 前	六、三〇	車 中	土曜に限り内金剛行二、三等輕便車を増結するを以て之に乗車するときは鐵原に於て乗替を要せず
第二日	長 安 寺 前	八、三〇	毘盧峯 後	四、〇〇	久米山莊	途中明鏡臺、萬瀑洞探勝
第三日	毘盧峯 前	七、〇〇	新萬物相 後	四、〇〇		途中九龍淵探勝
第四日	安 邊 後	二、五〇	京 城 後	九、四〇		六花岩まで自動車 新萬物相探勝 濃石亭探勝 乗替

金剛山探勝日程 (其の四)

日次	出 發 地		到 著 地		宿泊地	備 考
	地名	時刻	地名	時刻		
第一日	京 城	前 八、〇〇 <sup>時分</sup>	安 邊	後 二、五五 <sup>時分</sup>		
第二日	溫 井里	前 八、三〇	溫 井里	後 七、三〇	溫 井里	乘換 九龍淵探勝
第三日	溫 井里	前 八、〇〇	舊萬物相	前 一〇、三〇		舊、新、奥萬物相探勝
第四日	長安寺	前 八、〇〇	長安寺	後 二、〇〇	長安寺	直ちに明鏡臺探勝
	鐵 原	後 七、二〇	鐵 原	後 七、〇八		乘換 萬瀑洞探勝

金剛山探勝日程 (其の五)

日次	出 發 地		到 著 地		宿泊地	備 考
	地名	時刻	地名	時刻		
第一日	京 城	後 一〇、四〇 <sup>時分</sup>	安 邊	前 六、〇〇	車 中	乘換 叢石亭探勝
第二日	安 邊	前 六、二〇	庫 底	前 七、四〇		直ちに自動車にて六花岩に至り舊萬物相探勝
第三日	溫 井里	前 八、〇〇	溫 井里	後 二、一八	溫 井里	九龍淵探勝、昆盧峯に至る
第四日	長安寺	前 八、〇〇	長安寺	後 六、〇〇	長安寺	途中萬瀑洞探勝
	望軍臺	後 〇、〇〇	望軍臺	前 二、三〇		望軍臺探勝
	長安寺	後 二、三〇	鐵 原	後 七、〇八		乘換
	鐵 原	後 七、二〇	京 城	後 八、四〇		

慶州視察日程

日次		出		發		到		著		地		備考	
第一日	京	城	前	九、二〇	時分	各等、食	大	邱	後	五、〇	時分	佛國寺泊を希望せらるゝときは午後九、〇〇分慶州發にて午後九、三八分佛國寺著となる	
第二日	慶	州	後	四、三〇	同		佛國寺後	四、四	佛國寺			自動車に備上げ古蹟視察此の間汽車に依らず前記自動車にて夕刻佛國寺に至るも可	
第三日	佛國寺	前	一、〇九	同		蔚山後	〇、三					早朝石窟庵石佛視察、往復約二時間半	
	釜山	後	一〇、〇〇			釜山後	四、五〇					此の間約二時間、定期自動車の便あり途中東萊温泉に入浴、疲勞を慰し九時頃迄に釜山に出るも可	
	下	關	前	翌日	七、〇〇								

左記に於て朝鮮・滿洲に關する旅行・通關・貨物等の御質問並に事情講演・活動寫眞の御需めに應じます。

東京 鮮滿案内所	九ノ内ビルデング	電丸ノ内 (自三、一三、一)
大阪 鮮滿案内所	東區堺筋安土町	電本町二七〇〇一〇
下關 鮮滿案内所	下關驛前	電一九六二



昭和八年九月二十五日印刷  
昭和八年九月二十八日發行

朝鮮總督府

京城府太平通二丁目一番地

印刷所 大海堂印刷株式會社